

# 松本中学校・松本深志高等学校山岳部年譜

年度	山 岳 部 の 活 動	山岳界・社会・学校のできごと
大正7 (1918)	・山岳部新設、夏休み活動、槍ヶ岳、白馬岳などに第1回登山 ・9月山岳部の夏休み活動報告会	・第9高等学校(松高) 設置が決まり地鎮祭 ・5月、王ヶ鼻へ全校遠足登山
大正8 (1919)	・校友64号山岳部報(野球・剣道・徒歩・山岳の4部) 「我が故郷の日本アルプスが柔弱なる都會の成金連のために蹂躪されるのは実に残念である。我々はこの崇高なる日本アルプスの山麓に住む身でありながらこの山を知らぬのは実に残念である。我々は率先して日本アルプスに登り、以て大いに剛健の気性を練らざるべからず、と云う理由で生まれた我が山岳部は第2回の登山を決行した。白馬登山(7/24より2泊3日)小野光仁記。槍ヶ岳方面登山(7/23より4泊5日)高橋英夫記。八ヶ岳踏破(7/27より2泊3日)森政勝記。乗鞍・穂高岳踏破(7/21より3泊4日)落石事故に遭う。」	・日本でも学生山岳部を中心に高峻山岳登攀積雪期登山への希求が盛んになる。 ・慶應・早大などの冬期白馬登山への試み。 ・国際連盟成立
大正9 (1920)	・校友65号山岳部報より「乗鞍岳登山記・常念山脈踏破」	・ワシントン軍縮会議始まる ・横有恒アイガー東山稜初登攀 ・英国第1次エベレスト遠征隊
大正10 (1921)	・校友66号(大正11年2月)より・鉢伏山紀行(全校登山遠足)「10月15日、少し霧のあるグラウンドを脚絆姿勇ましい800人は目に希望の光をたたへて出発した。……」 ・10月29・30日、須砂渡幕営、常念岳登山	・日高六郎日本人として初めてモンブラン登頂 ・北大スキー部板倉勝宣らが「山とスキー」創刊 ・横有恒一行冬期槍ヶ岳登山に成功 ・早大パーティー積雪期乗鞍岳登山に成功(サン・ギイド)
大正11 (1922)	・校友67号(大正12年2月)山岳部報「鷄声暁を告ぐる時、晚鴉闇に急ぐ時、まあ立ち上って西の空を見たまえ。蜿蜒として数十里、巖然として迫らず動ぜず立並んでゐる山々、それは私達の日本アルプスではありませんか。……」第2班立山方面登山報告、神保先生、荻原四郎他二人、案内人、強力、一行6名、7/21大沢小屋、7/22平小屋、7/23五色ヶ原、7/24立山室堂、7/25立山河原露営、7/26魚津、7/27日本海舟遊び、7/28帰着。	・慶應・学習院山岳部酒沢岩小屋時代の先鞭をつける ・関東大震災 ・学習院・早大両パーティーの北鎌尾根初登攀争い ・横有恒、慶應山岳部報「登高行」に「岩登りについて」を発表 ・立山松尾峠で横有恒一行遭難、板倉勝宣死す
大正12 (1923)	・校友68号(大正13年3月)山岳部報「……山岳部の奮闘発展も年々その度を加え歩を進め天幕の購入其他種々必要雑品の購入と相俟って今年は殆んど完全に近いものに造り上げた。かくて今年も又吾々の大いなる希望と元気を以て之を次の如き方面に依り7班に分けて登山者の募集を行った。第1班白馬岳方面2泊3日約8円、第2班槍常念山脈縦走3泊4日約10円、第3班常念燕岳登山2泊3日約4円、第4班槍烏帽子岳縦走5泊6日約23円、第5班立山登山5泊6日約15円、第6班燕岳登山1泊2日約2円、第7班乗鞍岳登山約10円、7月中旬から下旬にかけて今年是比较的天候定まらず登山者も一般危ぶみしが幸此の挙に於て吾々は一人の不幸者も出さなかつた事は大いに祝福す可き事柄である。かくして大正12年度における山嶽部の行動も終わった……」	・英国第3次エベレスト遠征、マロリー、アーヴィン行方不明 ・RCC関西に創設 ・早大パーティー1月巖冬期槍ヶ岳登頂(サン・ギイド) ・慶應パーティー前穂北尾根踏破 ・冠松次郎及六谷より黒部下降 ・大島亮吉「酒沢岩小屋でのある夜のこと」 ・関東大震災
大正13 (1924)	・校友69号(大正14年2月)「燕岳から槍嶽まで(登山記の一節)藤松勝光(6頁分)しょうしゃな新築燕山荘の様子、小林喜作と松中生喜作新道の様子」 ・山岳部報「登山の普及、冬山登山への憧れ、スキー部の設立、校友の理解	・普通選挙法が成立 ・日本山岳会横有恒一行マウント・アルバータ遠征 ・三高パーティー(リーダー西堀栄三郎)北岳

年度	山 岳 部 の 活 動	山岳界・社会・学校のできごと
	への訴え、夏期登山7班にわかれて実施	スキー初登頂 ・松本女子師範学校附属小学校川井訓導事件
大正14 (1925)	・校友70号(大正15年(昭和元年)3月)校友会記事中、柔道、剣道、野球、競技、辯論、山岳の各部報告12頁分より山岳部報「……あさましい争闘の平地に喘ぎうかれてやがて若さと澆刺たる元気を失ってしまふ多くの學生を思へば非常の忍耐と危険とを犯して峻嶺をよじる事も必ずしも無益の勞力でない、否むしろ私等に取ってこの上もない刺激剤である。松中山岳部はこれを以て生まれ、これを以て成長した。今年創部第7年を迎へ、次の8班編成し登山者を募集した。第1班白馬、第2班槍常念山脈、第3班燕常念、第4班烏帽子槍縦走、第5班立山剣、第6班燕槍穂高、第7班乗鞍、第8班白根三山縦走、第4班は烏帽子槍縦走の後に日本アルプスの險難穂高を踏破して万丈の気をはいた。尚今年は陸軍から天幕飯盒の拂下をうけリュックザックを新調して校友の需要に応ずる事に努力した。……」	・秩父宮、榎有恒らとともにマッターホルンなどヨーロッパアルプス登山 ・早大、RCCパーティーなどが北穂滝谷登攀 ・三高パーティー前穂奥又白谷登攀、遭難 ・学連を中心に学校軍事教練反対運動 ・中等学校以上に陸軍現役配属将校による軍事教練実施 ・西堀栄三郎ら積雪期北岳スキー登山 ・日本山岳会隊(隊長榎有恒) マウント・アルパータ初登頂
昭和元 (1926)	・校友71号(昭和2年1月)山岳部報「第1班白馬、第2班燕・槍・乗鞍縦走(4泊5日)、第3班後立山縦走(針ノ木から白馬5泊6日)、第4班大滝・蝶・常念・槍(4泊5日)、第5班穂高・槍・笠岳(6泊7日)、第6班木曾山脈(木曾駒から越百山3泊4日)、第7班南アルプス縦走(仙丈から三伏峠6泊7日)、第8班上高地キャンプ(3泊4日)、第9班針ノ木・立山(7泊8日)、今年こそ近年まれなる好天気続きで登山者にとって最も恵まれた時でした。幸いにも此の拳に於て一人の不幸者も出さなかった事は祝福すべき事であります。……」	・冠松次郎ら黒部川下廊下を完全遡行、十字峡など発見
昭和2 (1927)	・校友72号(昭和2年12月)山岳部報(小多田井恒一記)「登山旅行が人格陶冶の上に於て又精神鍛錬の上に於て如何に多大の効果を齎すかは論を待たない事である。自然の進化は山岳である。……山岳部は他の部に於けるが如く優勝の榮を得て校友全体を勝利の陶醉に入らしむるような外面的な華やかさを持っていないので……。今年上高地は国立公園となり……上高地はその昔吾々の先輩が国民新聞紙上で初めて天下に紹介したのであって吾等はアルプスの先入主でも有れば又名誉あるパイオニアでもある。……」 ・夏期山岳旅行日程、第1班白馬から第11班八ヶ岳まで、内第3班燕・槍、第5班常念・槍・穂高(4泊5日)、第9班赤石山脈(赤石・荒川・東岳、4泊5日)、第7班立山(4泊5日)など大成功だったと記している。 ・終りに委員名として5年、4年、3年、の各組一名ずつの名が記されている。(山岳部は運動部に属するも各組より選出された委員会的性格を有していた。)	・金融大恐慌 ・大島亮吉ら谷川岳の岩場発見(一ノ倉沢、マチガ沢) ・早大パーティー針ノ木岳麓川谷雪崩遭難「吹雪やみて/月はいでぬ罪ほとほと/うつは風か/樺火悲しく燃ゆる夜半を/帰れ友よ/われら待てり(西條八十「北アルプスの犠牲」) ・慶應パーティー前穂北尾根遭難大島亮吉死す ・RCC伊藤愿单独小槍登攀 ・上信越の山々が大学山岳部によって注目されるようになる ・長谷川伝次郎のヒマラヤ行 ・最初の普通選挙 ・思想弾圧つよまる
昭和3 (1928)	・校友73号(昭和4年1月)山岳部報(委員金森伊織記) ・夏期山岳旅行計画第11班まで「……幸い私共の第6班は、多年望んで居た北アルプス第1の險峻、剣岳を突破して万丈の気をはいた事は吾々松中山岳部として特に大書す可き事であった。最後に私共の親愛なる喜多村君が北葛澤に於て哀れな最後を遂げた事は、吾々としては最も悲しむべき事である。彼の悲壯の最後を想ふて涙新たなり。」第5班後立山縦走(強力、防寒具、ガンジキの必要)針ノ木、新	・伊藤秀五郎、大雪山石狩岳登頂 ・大島亮吉、前穂北尾根で墜落死

年度	山 岳 部 の 活 動	山岳界・社会・学校のできごと
	<p>越乗越幕営、祖父岳、冷澤幕営、鹿島槍、八峯キレット幕営、五竜岳、八方小屋泊、唐松岳、不婦キレット、白馬山頂小屋泊（6泊7日）班長喜多村忠愛。・校友日誌、8月1日喜多村忠愛君遭難の報を聞く。人跡不踏の地に遭せらる君の生死は？友よ死なずに居てくれ。8月2日喜多村君は無惨にも東信発電所の滝壺に引かかって居たとの報あり、眞に哀悼にたえぬ。8月4日午後1時55分電車によって5年生喜多村忠愛君の遺骨帰り来る。（10月13日葬儀）北葛遭難記、神田三郎述、岸川春光筆、「時は昭和参年七月二十六日、二十四日の出発が雨の為等々で遅れ……」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京大パーティー北岳バットレス初登攀</li> <li>・2月加藤文太郎槍ヶ岳単独登頂</li> <li>・関西学生山岳連盟発足</li> <li>・ドイツ隊カンチエンジュンガ初登頂</li> </ul>
昭和4 (1929)	<p>・校友74号（昭和5年1月）山岳部報「五つの班の登山計画実行、特に第5班、烏帽子・双六・槍・奥穂・前穂・徳本峠越えの6泊7日を敢行、本文中にアルプス登山記・有賀千万雄、単身乗鞍踏破記・上條雄三」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界経済恐慌</li> <li>・槍沢小屋での雪崩遭難</li> <li>・「山と溪谷」創刊</li> <li>・藤木九三「岩・雪・アルプス」刊行</li> </ul>
昭和6 (1931)	<p>・校友76号（昭和7年2月）山岳部報（11ページ分、上原輝久夫記）「……夏は同じやうに巡って来る。冬は同じやうに巡って来る。かつては人々は微動だにしない沈黙の巨人の前に数千年間頭を低く垂れて、恐れ戦慄いて居た。しかし今はアルプスを征服しようとする人々によって満ちている。年々歳々山は変らなかつた。年々歳々人は変つてきた。このアルプスを征服した嘉門治も喜作翁さんも憧憬の山麓深く眠り我等岳輩の来山をほ笑みながら見守っているだろう。我々の山のロマンスが想い出がいよいよ深くなって来る。夏は同じやうに山の上に巡って来た。しかし……冬は同じやうに山の上に巡ってきた。しかし……」</p> <p>・山岳部誌、6/25夏山コースの吟味・決定12コース、7/1コース登山計画を印刷したものを各教室へ地図とともに貼り出す、7/24各コースリーダーへ校長からの訓示、7/21頃より5方面に出発、第2班リーダー他2名常念山脈縦走、第3班リーダー他5名燕・槍縦走、第4班リーダー他3名乗鞍・焼・上高地、第6班リーダー他2名常念・槍・穂高縦走、第11班リーダー他5名上高地キャンプ。</p> <p>・松本近傍野営地調査、天狗原（小野村）、荊原峠（岡田村）、上高地（安曇村）、牛伏寺河谿（片丘村）、塩尻峠、室山（小倉村）、芥坊主・美ヶ原牧場・渋池（本郷村）</p> <p>・文苑中に、焼岳登山・上村貞蔵、上高地行・中村滋夫、常念の一夜・本郷加寿正、上條嘉門治翁・上條徳司、思いでの山・林峯、キャンプ生活・中田源寿の文。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・満洲事変起こる</li> <li>・京大パーティー富士山に極地法による登山</li> <li>・「アルピニズム」(のちに「登山とスキー」)刊行</li> <li>・前穂東壁、松高ルンゼ開拓</li> </ul>
昭和7 (1932)	<p>・校友77号（昭和8年1月）山岳部報（6部に庭球、射撃、古本、アカシア会加え10部）前文にジョン・ラスキンの『山は人類の為に作られた學堂にして且つ寺院なり』をひき「そうだ『山』それこそ我々総べての學の殿堂だ。我々の聖なる神だ。お、そうだー鋭いピッケルの響きの下から眞紅の滌滌なる太陽が登り、巨岩と争ふ溪谷の叫びが響き白雲の間から槍嶽穂高の秀峰剣嶺がほ、えんでゐると云うものだーおおなんという光明の姿だ。なんと云う若人のシンボルだ。……」と述べて「尚上高地に於けるテント（11号）焼失事件について不注意を深く校友に詫びると記している。「山岳部誌」として年間の活動報告がある。校友へのテント、リュックサック、飯盒などの貸し出し、そのための用具の管理整備、夏山登山の立案、山行リーダーをつとめる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早大パーティー滝谷積雪期登攀研究</li> <li>・ドイツ隊ナンガパルバートに遠征</li> <li>・東京の「登歩渓流会」などが谷川岳に登り始めアルピニズムの大衆化の傾向、奥武蔵、丹沢、奥多摩の山々がその対象となる</li> <li>・経済不況、教員給与不払問題、農漁村児童の欠食問題などおこる</li> <li>・小島鳥水「氷河と万年雪の山」刊行</li> <li>・北アルプス案内人組合19、山小屋83</li> <li>・上海事変、満洲国建国宣言</li> </ul>

年度	山 岳 部 の 活 動	山岳界・社会・学校のできごと
	<p>ことが主たる活動であったことがわかる。7月に山岳家山口勝(先輩)氏を迎え校長も出席して登山講話が行われている。</p>	
<p>昭和8 (1933)</p>	<p>・校友78号(昭和9年2月) 山岳部報 ・4/29・30の連休のためのテント貸し出し ・購入品発注、天幕3張、ランタン5個、飯盒15個、カンジキ4個、シート1枚、リュックサック4個 ・7/20夏休み前貸し出し ・夏山登山9班参加者計62名 ・京都帝大医学部の高山医学研究の実験者に数名が応募する ・夏山登山を前に山口勝氏の登山講話を山岳部主催で講堂にて催す ・9月夏山登山の報告会</p>	<p>・水野祥太郎「岩登り術」刊行          ・日本ワシントン条約破棄、国際連盟脱退          ・長野県教員赤化事件          ・京大滝川事件          ・深田久弥「わが山」刊行</p>
<p>昭和9 (1934)</p>	<p>・校友79号(昭和10年2月) 山岳部報 (中島深水記) 「冬も遠く彼方に、陽春の長閑な陽が亦此の高原を訪れ、吾等と古き歴史を共にせし古城の彼方アルペンには再び深き眞理が充たされて神秘と永遠の扉は無韻の神曲に開け、洞然たるパノラマは展開されて、何処からともなく匂う霊妙の香氣にいつしか心中に湧き上る心志悠揚の躍動と大きなときめきに吾等は大きな希望を輝かして1934年のスタートを切った。」 ・続く部誌の中に次のような記事がある。「6/5絹テントを工業試験場より購入す。学校山岳部で出すのが初めてとか。思い起こせば数年前ダブルの大テントを各大学等に率先して上高地に張り、今又斯くとは、吾が山岳部が山岳会の先端を進み得るとは何んと幸福なことであろう。然し重任なる哉、此の維持!彼のヒマラヤ探検隊リーダーのラットレッヂ氏の云う「雄飛する鳥は先ず翼を収む」を心に秘めて、私が責任者となり本年度夏季登山プランを作り出す。」この夏の天候不順で山行難渋するも立山・薬師方面他7班の山行成立する。</p>	<p>・この年の卒業式より「君が代」「蛍の光」を唱う          ・生徒の創立50周年記念行事開催の希望が容れられず自治の抑制とみて頌徳文庫に5年生たてこもる          ・中部山岳国立公園指定(中部山岳の名付親は本校1年平出宏)          ・今西錦司、西堀栄三郎ら京大パーティー極地法による白頭山登頂          ・蟻ヶ崎新校舎落成移転</p>
<p>昭和10 (1935)</p>	<p>・校友80号(昭和11年2月) 山岳部報(平倉五郎・本郷加寿正記) 「7/10、5-1教室で山岳会の泰斗山口勝氏を煩し座談会を催す。氏独特のユーモアを交へ我等後輩を熱誠を以て導いてくださる。殊に軽妙なザイルの使い方に至るや一同或は陶然として語を交へず。或は感嘆の声を漏らす。又校長先生の訓戒、激励を受ける。7/21、長い間城下の山岳部として名声を博して居た我等も本日涙を以て古き学舎を去り、新校舎南天体操場西北隅の一室に假控室を設け移る。」</p>	<p>・立教大パーティー極地法により鹿島槍天狗尾根登頂          ・10月立教大パーティー、ヒマラヤ・ナンダゴット初登頂          ・創立50周年記念新校舎落成祝賀式          ・加藤文太郎槍ヶ岳北鎌尾根に死す          ・尾崎喜八「山の絵本」刊行</p>
<p>昭和11 (1936)</p>	<p>・校友81号(昭和12年2月) 山岳部報(221頁より16頁分)(飯島孝雄記) ・本年度のテント等の貸し出し数、5月中45組、6月中50組、7月中32組、8月中43組、9月中19組、計191組、利用者数478人とある。 ・先輩登山家山口勝氏を招いて登山講座を開いている。その記事、「氏は例年の如く例の名句調で青天を突切る様な崇高雄大な岳靈に我々を引き入れて或は萬年雪の雪渓に或は可憐な高山植物のたまらない美しさに憧憬させて興奮と希望の大渦の中へ我々を引きづり込んで下さった。氏の云われた有意義な事で記憶に残っているものだけを記す。1. 登山に於ける服装に就て-商店で新しい物を求めるは不必要な事である。家に有るもので十分である。(即ち流行にかぶれて登山の意義を忘れるなどの意なるか?) 履物にはゴムたびが一番良い。少し大きいものを求め中にへちまでも入れればフェルトを履いている様だと。2. 食料品に就いて-味噌、か</p>	<p>・日本山岳会、上高地梓川畔にウエストーン像建立          ・足立源一郎らによって日本山岳画家協会創立第1回展覧会          ・この頃谷川岳の岩場が脚光を浴び、東京徒歩渓流会の「谷川岳」刊行さる          ・加藤文太郎「単独行」頒布</p>

年度	山 岳 部 の 活 動	山岳界・社会・学校のできごと
	<p>つぶし、しそ、みそづけ、するめはまむしの大好物なので、まむしの出そうな所で天幕を張る時は持参せぬようにすること。3. 案内人の雇い方について4. 山の気象と暴風雨に襲われた場合—など。」・夏季登山計画は17班に及ぶものが計画され、うち9班が成立実行されている。第9班 針ノ木・立山・剣・白馬方面登山記(望月恒雄) などが載っている。「我々の班は俺と笠原君青木君それに大学山岳部に知られている浅川というグウアイドの一行四人であった。松中山岳部の名誉と期待を双肩に荷って一番電車に乗り込んだ。車中は色々の身支度をした登山者で一杯。中に豊科高女も乗っていた。白馬らしい。……」7/21針ノ木、7/22、五色原、7/23・7/24暴風雨のため五色ヶ原停滞、7/25立山を越えて剣沢、7/26剣頂上長次郎谷を下り池の平小屋、7/27仙人尾根祖母谷温泉、7/28清水岳、7/29白馬岳を越えて松本へ、実に8泊9日の山行であった。</p>	
昭和12 (1937)	<p>校友82号(昭和13年2月)山岳部報(太田利弘記)「……中等学校でこれだけのプランを立て、又それをどしどし実行して行く学校は恐らく我校だけであろうと思う。夏期登山班の参加者の少なかったことは実に残念だ。地元の学校としては実に少ない。もっともっと山に行ってもらいたいものだ。今年は我が部では50人入のテントを買い入れた。恐らく県下随一の大テントであろう。校友諸君にも披露した。これは上高地ベースキャンプに使用することにして一般校友諸君の利用に備えた。上高地でも断然光っていたのは嬉しいことだった。」15班の登山計画のうち槍・常念・蝶・大瀧縦走(4泊5日)、槍・穂高縦走(5泊6日)など7方面が成立している。「旅行・遠足・登山記」の章に「御嶽登山記山岳部輪湖満次郎」が載っている。5頁にわたる詳細な記録である。「吹き上げる烈風を斜めに受け役に立たぬピッケルをひきづって圓い滑らかな尾根を気をつけて進む」などという文にその様子が偲ばれる。「附記」として文末に記されている文を引用する。「峨々たる峰に四方を廻らす信州の中に住みかかる易しい流行のない、抹香臭い山に登るなんてつまらなかったろうと云われる者があるかも知れない。成程、浮調子な奥行のない徒に世の流行のみ追いたがるアルピニストにはさう思えるに違いない。それは真の登山の意味を知る者ではない。美しい信仰者の愛、親切、如何なる困難をしても峰を拝するまではと已む事なき彼等の熱烈なる努力、嗚呼之こそ真の登山の姿ではなかろうか。現時、暴支膺懲の為北支出兵に當り、皇国隆盛、皇軍の武運長久を山に祈り得た事を銃後の一員として欣快とする次第である。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日華事変はじまる</li> <li>・飯沼正明飛行士訪欧飛行に成功</li> </ul>
昭和13 (1938)	<p>・校友83号(昭和14年2月)山岳部報 山上に松中山岳部と記されたテントを張り、制服制帽姿でザックを負いピッケルを手にした部員9人が部長先生を中心に撮った写真が載っている。「登山・遠足・紀行」の章に「穂高縦走記・5年赤沼潤一」と「燕槍縦走登山記・田辺弘」が5頁にわたって載せられている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春秋の農村への勤労奉仕始まる</li> <li>・ヘックマイアー一行アイガー北壁初登攀</li> <li>・松高パーティー前穂4峰正面初登攀</li> <li>・木暮理太郎「山の憶ひ出」刊行</li> </ul>
昭和14 (1939)	<p>・校友84号(昭和15年1月)山岳部報 天幕貸し出し総数202組、利用者数599名、5年～3年の各組より1名ずつの委員12名での貸し出し管理、修理などの苦勞が記されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2次世界大戦始まる。ノモンハン事件</li> <li>・1人1部必入制実施</li> <li>・松高パーティー積雪期奥又白で遭難</li> </ul>

年度	山 岳 部 の 活 動	山岳界・社会・学校のできごと
昭和15 (1940)	・校友84号(昭和15年1月)山岳部報 この年も「夏期登山、キャンプ、ハイキングの計画を遂行するに先立って先輩山口勝氏の経験談を聞いてその決行に萬全を期した」とある。特に山口氏は「山の気象」について「雷」についての注意を丁寧に語っている。「7月20日より8月末日まで恒例により上高地へテント『雷鳥』を常設して交友並に先輩の便を計る」とある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日独伊三国同盟成立。日本仏印進駐</li> <li>・ウエストン、ロンドンで死去</li> <li>・北大パーティー、ペテガリ岳で遭難</li> <li>・防空演習行われるようになる</li> <li>・文部省の訓令により、校友会報国団となる、野球部廃部</li> </ul>
昭和16 (1941)	・校友86号(昭和17年2月)山岳班(田辺正雄記)(報国団組織となり班と改称)「夏休み」が「夏季鍛練期間」となり日数が短縮されたため、登山計画の作り直し、テントなどの貸し出し計画の作り直しを余儀なくされる。そのため天候不順も加わり殆んど実施できなかつたと報告している。少数の校友しか参加しない班別の計画は止めて全体が参加する心身鍛練登山をしてはどうかと提唱している。「紀行登山」の章に「槍ヶ岳往復・4年袖山光司」の文がある。上高地のベースキャンプ「雷鳥」に泊っての1日で槍往復の記録文である。槍沢で着ごさを敷いて迂り下っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・太平洋戦争勃発</li> <li>・味噌汁給食開始</li> <li>・浦松佐美太郎「たった一人の山」刊行</li> </ul>
昭和17 (1942)	・校友87号(昭和18年2月)山岳班(増田康明記)「……夏期登山については我が山岳部多年の宿題たる団体登山の実現に山崎先生を始め我々班員は極力努力し、団体登山のコースその他の計画書も綿密なる研究の上作成し学校当局へ提出したのであったが容れられなかった。」そして例年のような計画を急ぎよ立てたけれど、上級生のさまざまな行事のため殆んど実施できなかつたと記している。その中で「紀行登山」の章に「夏期鍛練行・4年蜂谷泰男」がある。「松中山岳登山班一行9名の燕・槍縦走記」である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月中5日間、10月中5日間全校農村への勤労奉仕</li> <li>・京大今西錦司パーティー大興安嶺に遠征</li> <li>・大学高専卒業9月に繰上げとなる</li> <li>・山崎安治ら早大パーティー極地法による横尾尾根から穂高・槍登山</li> <li>・本校の一部軍の営舎となる</li> <li>・清水賢治ら東大パーティー厳冬期燕・槍縦走など、慶應・立教・法政など太平洋戦争中の活動の最後を飾る活動</li> </ul>
昭和18 (1943)	・校友88号(昭和19年2月)報国団各班報国・山岳班(穂苅正雄記)「昨年5年生より此の班を委され今年こそはと大いに張切って登山計画をねった。先づ宿望の下級生鍛練登山の実現に邁進し、登山による班員の団結を計った。下級生鍛練登山は費用期間等の為1年生のみとし、1組1泊2日で交替に中房幕営・燕登山とした。団体登山が実現した事は将来の為実に喜びに堪へぬが、班員登山が中止となったのは残念である。決戦下、多忙であろうがよく折を見て鍛練の為に登山して益々班を盛んにしてくれ。班員諸君有難う。一致団結して立派な山岳班を育て上げてくれ。末筆になりましたが御世話を下さった山崎先生に御礼申し上げます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦局厳しき増し6月中5日間、10月中7日間全校農村へ勤労奉仕、7月県種畜場で開墾作業、8月より9月にかけて学年ごとに順次有明開墾作業</li> <li>・炭木猪之吉白出沢で遭難</li> </ul>
昭和19 (1944)	昭和19年度・昭和20年度は太平洋戦争の戦況逼迫による全国的な学徒動員、やがて迎えた終戦とそれに続く混乱の中で学校生活もままならず校友誌も2年間刊行が滞ったままであった。この間の山岳部活動と云えるものとして二つ挙げておく。・昭和19年6月、4・5年生は名古屋の工場へ動員。3年生は今井地区の陸軍飛行場建設工事に。そこで山岳部は休憩所用のテント張作業を担当した。そこから一望にする常念山脈後立山連峰。「山に行きてえな」と部員部友4名の夜行軍徳本峠越え上高地行敢行。・昭和20年8月終戦。当分自宅待機。それとばかり伊藤了一他部員部友2名の槍・穂高縦走となった。参加者の一人服部慎	<p>昭和19年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本山岳会事務所及び山岳書庫爆撃により焼失</li> <li>・学徒動員令公布、5年生4年生名古屋へ通年動員、3年生芝浦タービンへ</li> <li>・B29の本土爆撃熾烈になる</li> <li>・医専問題、同盟休校、結局医専と共学となる</li> </ul> <p>昭和20年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本ポツダム宣言受諾、連合国に降伏、天皇の終戦の詔勅</li> </ul>
昭和20 (1945)		

年度	山 岳 部 の 活 動	山岳界・社会・学校のできごと
	一の作った山行記録「荒天縦走記」がある。	
昭和21 (1946)	<p>・ 校友89号 (昭和 22年 2月) 山岳部報 (伊藤了一・西村忠彦記) ・ 6/15～17新部員歓迎登山上高地幕営、焼岳登山。まだ他に登山者のない小梨の花咲く上高地で今年度の山岳部の活躍と部員の奮闘を祈って大キャンプファイヤー。伊藤他15名。 ・ 6/26～29残雪を踏んで燕岳・槍ヶ岳縦走、用具の不備に悩む。伊藤、西村、服部他1名。 ・ 7/21博物会の白馬登山に服部案内人とした参加。 ・ 8/4・5 1・2年生部員の上高地幕営指導。 ・ 8/4～8 槍・穂高縦走、先輩穂苅正雄氏をリーダーとして5年生5名、宮島先輩参加。 ・ 8/10～13槍・燕縦走、西村他7名。 ・ 8/10～12白馬岳、青木、服部他5名 ・ 8/16～19鹿島槍・針ノ木縦走、伊藤単独行 ・ 8/16～21穂高酒沢、西村他2名。 ・ 9/1烏帽子岩ロッククライミング、伊藤他7名。 ・ 9/7・8ハケ岳、伊藤他7名。 9/19烏帽子岩ロッククライミング、伊藤他4名。 ・ 10/20～25槍・穂高縦走、小槍登攀、西村他6名。 ・ 11/4 戦後第1回記念祭、演劇会で山岳部「三人と死」を上演。 ・ 12/1 中信学生山岳連盟結成準備会に参加。 ・ 3/17卒業式後1棟屋上よりザイル懸垂下降デモンストラーション。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国的な主食配給の遅欠配、食糧危機</li> <li>・ 食糧メーデー、食糧危機克服についての天皇の放送を講堂で全校職員生徒で聴く</li> <li>・ 6/22～30食糧難農繁期休業、第1学期考査は食糧事情のため夏休み後に延期となる</li> <li>・ 五色の帽線廃止</li> <li>・ 9月10月にかけて食糧難のためしばしば学校休業となる</li> <li>・ 日本国憲法公布</li> <li>・ 第1回松中記念祭 (松中オリンピック) 開催</li> </ul>
昭和22 (1947)	<p>・ 校友90号 (昭和 23年 3月) 山岳部報 (乾健彦・西村隆治記) 「……登山器具 (ピッケル・アイゼン等) はかなり買うこともでき、食糧事情もいくらか緩和されたので山行も比較的多方面にわたってできた。今年特筆すべきものとしては、先輩服部さんの遭難死である。白馬にねむる服部さんは山男として本望かもしれないが、服部さんにむくいる唯一の道は、私達が再び遭難せぬよう十分の注意をはらうことだと思う。……」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2.1ゼネスト宣言、総司令部より中止命令</li> <li>・ 昭和22年11月松中68回卒服部慎一、松高山岳部冬山偵察行に後立山に登山、白馬鑓付近で消息を断つ、詳細については32年後 (昭和 54年)、松中山岳部OBの手によって刊行された「吾に一人の僚友ありき・服部慎一遺稿集」参照</li> <li>・ 戦後の苦しい状況の中で学校山岳部の活動再開される、22年12月早大パーティー、ベテガリ岳登頂 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 松本中学校廃校松本深志高等学校発足、岡田甫校長就任</li> </ul> </li> </ul>
昭和24 (1949)	<p>・ 校友91号 (昭和 25年 3月・深志高校第1号) 報告と反省・山岳部 (中川昇三記) 「十数張のテントが失われ、その他の器具の破損もはなはだしく校友諸君の登山ガイダンス及び器具の貸し出しができなくなったこと、校友会の予算の関係上、上高地ベースキャンプの不備などお詫びする。移動用テントが無いため部員の活動もベースキャンプから日帰りルートに制限されてしまい、部員が研究を重ねた冬期登山の極地法、スノーホールの作り方等を実地に試す機会は費用や器具の不備でつまづいてしまった。暗くなるまで練習した屋上からのアブザイレンもトレーニングのみに終わってしまった。……」 ・ 5/6～11奥穂高、3年森他2名。 ・ 5月下旬烏帽子岩ロッククライミング、3年中川他1名。 ・ 7月下旬大滝～常念～槍、3年児玉他1名。 7月下旬穂高岳岳沢合宿、3年森他2名。小槍～北穂～前穂、1年早乙女。 ・ 8月中旬3年三村、山岸、下平などそれぞれ単独行で奥穂、北穂などに、また1年早乙女美ヶ原岩場にロッククライミング。 ・ 11月1月2月積雪期合宿、スキーツアー、白馬登山の計画ありとされている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 男女共学となり女子生徒入学</li> <li>・ 松川事件</li> <li>・ 中華人民共和国成立、インドネシア独立</li> <li>・ 信州大学発足</li> <li>・ 小林初代校長の「起居有礼」の額講堂に掲げられる</li> <li>・ 松涛明ら北鎌尾根で遭難</li> </ul>

年度	山 岳 部 の 活 動	山岳界・社会・学校のできごと
昭和25 (1950)	<p>C. L 加々美益次、三代沢、中沢、山口、分部、小野、中村(3年)、 S. L 岩垂敏雄、伴、藤森、木下、武居、長瀬、浅田、渡辺、飯田、倉田、小松、早乙女、佐々木、上野、林、須沢、曾根原、桜井</p> <p>・ 5月入部歓迎会、美ヶ原 ・ 6/8～12上高地雨季幕営研究会 ・ 7/15～17上高地～岳沢～前穂～奥穂～澗沢 ・ 7/24～29剣・立山・針ノ木縦走(1・2年生)、 室堂～剣～立山～針ノ木「これは誰にとっても、また山岳部にとっても画期的な山行で当時の高校山岳界では注目の山行であった。」(早乙女緩次氏の山日記より25年以下同) ・ 7/31～8/3小槍ロッククライミング ・ 8/16美ヶ原 ・ 9/9烏帽子岩ロッククライミング ・ 9/16～17浅間山登山「地学会と合同登山だった。……頂上と同時に火口の爆音は一層激しくなって不気味でもあり、恐ろしくもあり、身の危険すらも感じた。……」 ・ 9/24～25第5回国体長野県予選、豊科～常念～豊科、選手・早乙女 ・ 10/28～11/1第5回国民体育大会、於鈴鹿山脈 ・ 11/7～12澗沢～奥穂～ジャンダルム～西穂縦走</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 戦後のヒマラヤ時代始まる</li> <li>・ フランス遠征隊アンナブルナ初登頂 (最初の8000m)</li> <li>・ 朝鮮事変起こる</li> </ul>
昭和26 (1951)	<p>C. L 早乙女緩次、S. L 佐々木徳雄、伴、武居、岩垂、木下、倉田、小松、桜井、上野 (3年)、 二木(計)、 朝倉、須沢、曾根原、花岡、山田、林 (2年)、 倉科、田中、真島、青木 (1年)</p> <p>・ 4月下旬新入生歓迎会、美ヶ原 ・ 5月、2回の燕登山 ・ 5/3～6岳沢合宿 (信濃支部主催の県内高校山岳部対象の合宿) 岳沢にて滑落防止訓練をおこなう ・ 6月上旬、槍登山ウエストーン祭に参加 ・ 夏休み、剣～立山～薬師～黒部五郎～三俣蓮華～槍～上高地 (7泊8日)、 別に烏帽子～三俣蓮華～槍、槍～西穂、全員による澗沢合宿中、県ヶ丘高校上条君の遭難の報に接し合宿計画を変更し、市内山岳部捜査隊に加わり行動 ・ 8月中旬、小槍ロッククライミング ・ 8/20～22第6回国体県予選、鹿島槍ヶ岳 ・ 10/27～11/5第6回国民体育開会、大山、選手二木(計)・早乙女</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ サンフランシスコ平和条約</li> <li>・ 開校記念祭を「とんぼ祭」と呼称することにする</li> <li>・ 警察予備隊射撃場問題</li> <li>・ 前穂高岳～岳沢に今田重太郎により重太郎新道開通</li> <li>・ 大町市立山岳博物館開館</li> </ul>
昭和27 (1952)	<p>C. L 朝倉章、S. L 二木計臣、須沢、曾根原、林 (3年)、 田中、青木、倉科、真島 (2年)、 二木 (昭)、 安田、中田、宮沢、田中、浅川、上原、加藤、中嶋、中野 (1年)</p> <p>・ 7/28～8/4後立山縦走、白馬～上高地 ・ 7月末～8月中旬上高地小梨平ベースキャンプ ・ 10月第7回国民体育大会、山形県鳥海山、選手朝倉、二木 ・ 12月燕登山 ・ 1月スキー合宿、神城スキー場 ・ 2月スキー合宿、細野スキー場 ・ 3月スキー合宿、細野・黒菱スキー場</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対日平和条約発効、連合国軍司令部廃止</li> <li>・ 全国高校駅伝で深志高校第2位</li> <li>・ ホームルーム花見この頃より盛ん</li> </ul>
昭和28 (1953)	<p>C. L 田中弘美、S. L 青木伴文、宮沢、真島、倉科 (3年)、 二木、上原、中田、浅川、上條、増田、加藤、中野、赤津、小原、勝野 (2年)、 青山、田中、木村、岩垂、上杉、大月、波多腰、加藤、二木 (1年)</p> <p>・ 4/18～19新入部員歓迎登山、美ヶ原「王ヶ頭雪30cm」(青山俊介氏の山日記より30年まで以下同) ・ 6/12～15槍ヶ岳登山「槍沢でグリセードの練習、頂上アタックを全員で行う。アイゼン着用」 ・ 7月末～8月中旬上高地小梨平ベースキャンプ ・ 7/29～8/4立山縦走、宇奈月温泉～河曾原～池ノ平～立山～薬師岳～三俣蓮華～槍ヶ岳</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ マナスル第1次遠征隊、登頂できず</li> <li>・ 週6日制、70分授業</li> <li>・ 山岳部4年連続国体出場</li> <li>・ トンボ祭のファイヤーストーム「生徒多数参加、校庭中央にて若き学生らしき品位を保ちつつ熱を籠めて盛大に挙行」(90年史)</li> <li>・ イギリス隊エベレストに、ドイツ隊ナンガ・バルバートに登頂</li> <li>・ 早大パーティー、アンデス・アコンカグア登頂</li> </ul>



年度	山 岳 部 の 活 動	山岳界・社会・学校のできごと
	<p>～穂高～上高地 ・ 8月濁沢合宿 前穂～北尾根 ・ 9／5美ヶ原登山 ・ 9／12烏帽子岩ロッククライミング「熊、マムシに合う、ロッククライミング失敗に終わる。」 ・ 11／22～24冬山の荷上げ、上高地「上高地雪30cm、風強し」  ・ 11月表銀座縦走 ・ 12／28～1／2 (12／30～1／3)  冬期奥穂高岳登山、岳沢～天狗のCOL ・ 1／3スキー合宿、中山スキー場 ・ 2月スキー合宿、細野スキー場</p>	
昭和29 (1954)	<p>C. L 二木昭至、S. L 中田基家、宮沢、久保田、加藤、中嶋、中野(3年)、大月、青山、木村、波多腰、岩垂、上杉、田中、二木、加藤(2年)、高山、上條、新田(1年)、浅川、中原、佐々木、青木、清沢、小岩井、和合、野口、浅倉、丸山、中沢、丸山  ・ 4月新入部員歓迎登山、美ヶ原 ・ 5／1～3春山常念岳登山 ・ 6／12～14前穂高岳登山 ・ 6／26第8回ウエストン祭参加 ・ 6／27第9回国体長野県予選、焼岳～西穂高岳 ・ 7／10～11美ヶ原登山、大文字岩ロッククライミング ・ 7／20～26後立山～裏銀座～穂高岳縦走「双六池より、もみ沢岳に至る山道に雷鳥が親子で3羽我々の歩いていく前をピョンピョンと、とびながら前へ前へと行った。」「南岳にて蟻ヶ崎山岳部一行13名に行き合った。」 ・ 7／27～31岳沢合宿 ・ 7月末～8月中旬上高地小梨平ベースキャンプ ・ 8／1六百山登攀「完全なるジッヘル5回、ピトン使用数10本、残置1本、アプザイレン15m1回、トラバース5回」 ・ 8／2西穂高岳登山 ・ 8／3小槍ロッククライミング ・ 8／12～14ベースキャンプ(50人用)撤収 ・ 7月末～8月初、後立山縦走 ・ 8月岳沢合宿、前穂高岳 ・ 9／11～12烏帽子岩ロッククライミング ・ 10／16～17大文字岩ロッククライミング ・ 10／31上高地冬山荷上げ、偵察 ・ 11／1～3穂高岳登山、天狗のCOL～コブ尾根の頭「コブ尾根はアイスバーンだった。」 ・ 11／26～28上高地第2回冬山荷上げ ・ 12／23学校側より冬山中止 ・ 12／27美ヶ原登山、松本～王ヶ頭～松本(計5時間20分) ・ 1／4スキー合宿、細野スキー場 ・ 3／14～16西穂高岳登山 ・ 3／19～21積雪期登山技術講習会、妙高にて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イタリア隊K2に登頂</li> <li>・ 応援団による屋上での1年生への応援歌指導始まる(4月)</li> <li>・ 2年生森田実、中学同級生のパーティーに加わりアルプス銀座縦走の途次西岳にて遭難死(8月)</li> <li>・ ホームルームの経営実験校研究発表会(10月)</li> <li>・ 12／29前穂高で松本県ヶ丘高校山岳部員2名雪崩で死亡</li> <li>・ 富士山雪崩大量遭難事件</li> <li>・ 日本山岳会第2次マナスル登山隊</li> </ul>
昭和30 (1955)	<p>C. L 青山俊介、S. L 木村武仁、MG波多腰、二木、岩垂、加藤、大月、上杉、田中、丸山、中谷(3年)、丸山、上條、高山、新田、久保田、徳久、堀内、野口(2年)、藤森、山田、柳沢、丸山、徳久、堀内(1年)、中島  ・ 4／23～24美ヶ原新人歓迎登山、大文字ロッククライミング ・ 5／6美ヶ原登山、大文字ロッククライミング ・ 6／4奥明神ノ沢にて新人グリセード練習 ・ 7／21～23裏銀座縦走、烏帽子～双六～槍～上高地 ・ 7／25～31夏山濁沢合宿「B. C～三四のCOL～前穂高岳三峯フェース～三四のCOL～B. C、7月30日(晴)」 ・ 9／2～4第10回国体長野県予選、大滝山「青山1位で通過」 ・ 10／1第1回国体トレーニング、美ヶ原 ・ 10／28～11／3第10回国民体育大会、丹沢山塊にて「私は始めてアルプス以外の山に登ったのであるが、これが標高二千にも達しない山かと驚くほかありません。沢深く美しく入り込んでいる所、頂上まで林であり、変化の激しい気候、起伏にとんだ複雑な山容は、この山塊の特徴でしょう。」「最後に、スポー</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 岩稜会、前穂東壁でナイロンザイル切断遭難</li> <li>・ イギリス隊。カンチュンジュンガに、フランス隊マカルーに登頂</li> <li>・ ワルシャワ条約、ジュネーブ会議、アジア・アフリカ会議</li> </ul>

年度	山 岳 部 の 活 動	山岳界・社会・学校のできごと
	ツマンは社会的な名声や、物質的利益を得ようとしてはならないという事を再認識したい。」	
昭和31 (1956)	<p>C. L 上條良一、S. L 新田啓三、MG 高山俊一、久保田章正、(3年)、山田互朔、柳沢一吉、丸山章次、浅輪宗孝、徳久順一、堀内則夫(2年)、柴田紀男、伊藤紘一、青山貞二郎、二木秀明、本山哲(1年)</p> <p>・4/21~22美ヶ原新人歓迎登山、大文字岩 ・6/16~17美ヶ原訓練登山 ・7/27~30後立山縦走 ・8/2 澗沢合宿、荷上げ合宿「8月5日晴れたり曇ったり)キーパー浅輪、一方は穂高北尾根、一方は北穂東稜、V. VIのCOLをのぼりつめ、V. VIのCOLへ出る。私は腹痛のため下る。新田、浅輪、柴田の三名で北尾根に行く。V. VIのCOLで富士が見えた。昨日の富士の方がきれいだった。私はV. VIのCOLをグリセードで下る。テントで浅輪とふたりで皆んなの帰りをまつ。雨がふったりやんだり。」(山田互朔氏の山日記より)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マナスル第3次遠征隊、登頂に成功</li> <li>・スイス隊エベレスト第2登</li> <li>・ハンガリー暴動</li> <li>・エジプト、スエズ国有化宣言</li> <li>・自衛隊の射撃場問題、移転で決着</li> <li>・日本、国連加盟</li> <li>・湯俣温泉~三俣山荘に伊藤正一による伊藤新道開通</li> </ul>
昭和32 (1957)	<p>C. L 柳沢一吉、S. L 丸山章次、MG 山田互朔、徳久順一、堀内則夫(3年)、柴田紀男、青山貞二郎、伊藤紘一、本山哲、二木秀明(2年)</p> <p>・5/4~5美ヶ原、大文字岩 ・7/9~11B. C 設営本隊は徳本越え ・7/21~28室堂~五色ヶ原~薬師岳~黒部五郎岳~双六岳~槍ヶ岳~上高地 ・7/28~8/1 岳沢合宿 ・8/14B. C ・9/13~15国体県予選参加部報より「山の魅力」(柳沢一吉 記)</p> <p>山の朝は殊に早い。もちろんそれには地学的に早いということもあるが、それに加え山ではたいがい午後になると天候が崩れてくるので、勢い朝早く活動を開始しなければならなくなる。ようやく東の空が白み、まだ星が二三残っている、そんなころ昨日のうちに集めておいた薪を燃やし炊事を始める。…わたしはよくなぜ山に登ることが好きなのかと聞かれるが、そんなときは本当に返答に困ってしまう。山のよさ、様子を言葉に表すのは誠に難しい。…山へ登るにつれて、未知の山へ、未知のコースに心ひかれ経験をつみ、山へ数多くはいるに従い、いまだ知らぬ、より深く、より高く、より困難を求めて行くのは、そこにより変化と、より驚異を求めているからであろう。とは言うもののそんなことを聞く者は山へ登ったことのない、山を知らない人だろうから、「そんなことを聞くより山へ登ってみろ」と答えるより仕方がないのである。</p> <p>慣れた手つきと敏捷な動作により手早く朝食の支度のできるころ、ようやく太陽が昇り始める。今日の晴天を大自然に感謝しつつ朝食を済ませ、新しい変化と驚異とを求めて蝸牛のように今日もまた次の幕営地を目指して出発するのである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西堀栄三郎らによる第1次南極越冬</li> <li>・この年度から65分授業</li> <li>・NHK長野放送局テレビ放送開始</li> <li>・国鉄大糸線全線開通</li> <li>・ソ連人工衛星スプートニクス1号打上げ成功</li> <li>・横有恒、深志高校にて講演「マナスル登山について」</li> <li>・諏訪市での第1回清陵・深志交歓会に深志から1,072名参加</li> <li>・南極観測が始まる</li> </ul>
昭和33 (1958)	<p>柴田紀男、青山貞二郎、伊藤紘一、本山哲、二木秀明(3年)、平林尚樹、上條宏之、高山鎮、大久保嘉男(2年)</p> <p>・6/31~7/3表銀座縦走 ・7/21~25澗沢合宿、澗沢より下山途中、横尾にて本山哲部員が台風11号で増水した梓川に転落し、遭難死亡。</p> <p>本山哲部員の追悼文集「山想」より「無題」34. 7. 18 国見金熊</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員勤務評定問題で騒然</li> <li>・8/30講堂にて校友持参の花で埋まる遺影を飾り、山岳部員本山哲の慰霊式行われる</li> <li>・神戸大のパタゴニア、京大のチョゴリザ、深田久弥隊のジュガール・ヒマールなど海外登山盛ん</li> </ul>

年度	山 岳 部 の 活 動	山岳界・社会・学校のできごと
	<p>本山君の死に遭いて一年／淋しさに耐えかねてひそかに山を憶いぬ／一ある日／白い瀑布が／大空を斜めにかすめて物哀しく／原始の響きを／私の胸の奥深くとゞろかせている。／瀧しぶきは霧となって／まぶしい陽差しを虹の色に分散し／そのやるせない憂鬱が／私の心をとりとめもないものにする。／岩の上で啼くのか／谷にこだまする岩ヒバリの声よ／私はいま／この白い瀑布を見上げて／青ざめた午後の想いにふけている。／一また或る日 一／私は雪溪の傍らの／平たい岩石に身を横たえている／時折り雪の上を渡って／一陣の風が／白い涼気を私の肌にあざらせる／クレヴァスから滴り落ちる水滴は／みるみる無数の友を呼びあって／はるか奈落の闇に／音もなく消えて行く／藍のうえに藍を重ね／紺と紺とが競うように／大空は私の上へ／際限もなくひろがっている。／やがて、／天が降りて来るのか／私のからだは浮き上がるのか／こゝ海拔一万尺の天涯に／私のからだは漂って／灰色の孤独にさいなまれている。／</p> <p>・11/20東山縦走計画校長命令により中止、美ヶ原まで</p>	
昭和34 (1959)	<p>平林尚樹、上條宏之、高山鎮、大久保喜男（3年）、尾日向洋、有田直之、小口晃、高柳朋彦、小口貴之（2年）、元田豊次、新井薫榮、常松文彦、宮嶋寛治（1年）</p> <p>・4/25～26美ヶ原、大文字岩 ・5/30～6/1常念岳～大滝山 ・7/8 B. C 設営 ・7/19～22 烏帽子岳～三保蓮華岳～槍ヶ岳～上高地 ・7/25～29濁沢合宿 ・7/31～8/4 後立山縦走（白馬岳～鹿島槍ヶ岳～針ノ木岳） ・8/13～16上高地合宿、B. C 撤収 ・8/22国体県予選、戸隠 ・10/17～18常念岳 ・10月、国体出場 ・12/6冬山偵察、荷上げ（遠見尾根） ・12/21～22冬山合宿荷上げ ・12/27～31遠見尾根</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キューバ革命</li> <li>・中ソの意見対立激化</li> <li>・第1回縮小トノボ祭（4月）</li> <li>・2年生学校行事としての集団登山キャンプ（全5班）第1回</li> <li>・東大パーティー、滝谷で遭難（10月）</li> <li>・伊勢湾台風</li> </ul>
昭和35 (1960)	<p>尾日向洋、有田直之、小口晃、高柳朋彦、小口貴之（3年）、元田豊次、新井薫榮、常松文彦、宮嶋寛治（2年）、岩井清志、真岡俊行、西村清亮、百瀬晃（1年）</p> <p>・4/30～5/1美ヶ原、大文字岩「5月1日（日）天気晴れ、起床四時。ゆうべは皆よく眠れたらしい。雲のまにまに見える青空にファイト100倍。もしこれが雨降りだったらどんなに惨めだったことか。さすがに嬉しかった。朝飯は生卵にお汁がががつ詰め込む。出発6時45分。日さえ射す。岩はすっかり乾いているので大文字岩で遊ぶことにする。登ったり降ったり。しかし中にははまだ岩になじめないのがいた。10時10分頃小野先生が上からドタドタやって来た。バスで来たようだ。いつもの黒の上下に、背中にはこれはめずらしや真新しいナップザック。中身は背広一つ。風邪気味とは言えなかなかの元気だ。…」</p> <p>・5/28～30常念岳～燕岳 ・7/9～11 B. C 設営 ・7/20夏山合宿荷上げ ・7/21～25濁沢合宿（北尾根、横尾尾根等） ・7/28～8/1針ノ木岳～五色ヶ原～薬師岳～黒部五郎岳～槍ヶ岳～上高地 ・7/31間山から薬師岳、黒部五郎岳へ「よく歩いたものだ。皆よく頑張った今度の山行中最も楽しいものだった。この日天気は朝から余りよくなかった。レンズ雲が不気味だった。キジをうったのは相当暗かったが、目の下には富山の灯がキラキラと美しく光っていた。…薬師ではすごいガスに巻かれ何も見え</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日米安保条約調印</li> <li>・中国隊エベレストに、スイス隊ダウラギリ主峰に登頂</li> <li>・民主主義の擁護を訴えて全校職員、生徒市巾行進（6月）</li> <li>・民主主義を守る県民会議発足（9月）</li> <li>・開智小本館、国重要文化財に指定</li> <li>・池田内閣「国民所得倍増計画」決定</li> <li>・三井三池大争議</li> </ul>

年度	山 岳 部 の 活 動	山岳界・社会・学校のできごと
	<p>ず頂上を何度も間違えた。今度こそと思って行くとまた前方に一段と高い山の輪郭がぼうっと浮き出ている。腹が立って来たころようやく頂上についた。…」・8/17～18B. C撤収・8/21～23国体県予選参加(御嶽)</p> <p>・10/8～9五竜岳・10月、国体出場(九州阿蘇山・尾日向)</p>	
<p>昭和36 (1961)</p>	<p>元田豊次、新井薫栄、常松文彦、伊藤尚亮、太田典男(3年)、西村清亮、岩井清志、真岡俊行、百瀬晃、上條剛彦、藤松勇郎、福島資剛(2年)、高田光敏、丸山堯生(1年)</p> <p>・1/3～7遠見尾根・5/27～29常念岳～大滝山・6/3～4美ヶ原、武石峰・7/7～8B. C設営・7/21B. C設営(スノコ板作り)・7/22～26瀬沢合宿(北尾根、南岳等)・7/28～8/1針ノ木岳～不動岳～烏帽子岳～三俣蓮華岳～槍ヶ岳～上高地・8/14～15B. C撤収・10/7～8五竜岳・10/28～29冬山偵察(遠見尾根)・12/3冬山荷上げ(遠見尾根)・12月28～1/1遠見尾根</p> <p>◎女子山岳部発足</p> <p>C. L内田充子、赤津佳子、一志尚子、武居佑子、田辺かなえ(3年)、青柳瑞子、松森久美子、岩淵孝子、甲斐直子(2年)</p> <p>・6/18女子山岳部発足記念登山、松本～バス～扉温泉～鉢伏～高ボッチ～東山～塩尻峠～バス～松本「皆全員疲れていない、女子としてのペースを知ることができた。これからの行動の最も基本的な基準を固める事が出来てよかった。」・7/29燕～大天井岳～常念岳～蝶ヶ岳～王滝山</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長野県山岳連盟結成(25団体参加)</li> <li>・高校生急増対策法公布</li> <li>・高校全入運動始まる</li> <li>・女子山岳部創設、職員会議で定める</li> <li>・深志女子山岳部発足記念山行、6/18鉢伏山～塩尻峠</li> </ul>
<p>昭和37 (1962)</p>	<p>西村清亮、真岡俊行、百瀬晃、上條剛彦、藤松勇郎、福島資剛、小松康孝(3年)、高田光敏、丸山堯生、青木博、平林淳(2年)、青木重夫、手塚睦男(1年)</p> <p>・4/5～8スキー合宿・4/28～29美ヶ原、戸谷峰・5/26～28白馬岳・7/6～8B. C設営・7/21～26瀬沢合宿(東稜、北尾根等)・7/28～8/1後立山縦走(八方尾根～鹿島槍ヶ岳～針ノ木岳)・8/1～5針ノ木岳～五色ヶ原～薬師岳～黒部五郎岳～三俣蓮華岳～槍ヶ岳～上高地・8/16日B. C撤収・12/1～2冬山荷上げ(遠見尾根)・12/28～1/1遠見尾根</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岡田校長退任、平林圭介校長就任</li> </ul>
<p>昭和38 (1963)</p>	<p>高田光敏、丸山堯生、青木博、平林淳(3年)、青木重夫、手塚睦男、伊藤雅敏(2年)、色川卓(1年)</p> <p>・4/27～29常念岳・5/25～27風吹大池～白馬岳～白馬鑓ヶ岳～猿倉・7/21～25瀬沢合宿(東稜、北尾根等)・7/28～8/1七倉～三俣蓮華岳～雲の平～双六岳～笠ヶ岳～白出沢～槍ヶ岳～上高地・12/27～31白馬乗鞍岳</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛知学院大パーティー、薬師岳で遭難</li> <li>・アメリカ隊、エベレスト登頂</li> <li>・ケネディー大統領暗殺さる</li> <li>・黒四ダム完成</li> <li>・体育館東の音楽室棟完成</li> </ul>
<p>昭和39 (1964)</p>	<p>青木重夫、手塚睦男、伊藤雅敏(3年)、色川卓(2年)、山崎文男、田口昭、久保田元久(1年)</p> <p>・4/25～26常念岳・5/23～25白馬岳・7/18上高地へ入山・7/20～24上高地～西穂～双六岳～黒部五郎岳～雲の平～七倉・7/26～30南アルプス縦走(仙丈岳～北岳～塩見岳～三伏峠)・10/17～18餓鬼岳・11/22～23冬山偵察、荷上げ(遠見尾根)・12/27～31遠見尾根</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学試験合格者発表455名(内女子82名)</li> <li>・南アルプス国立公園に指定</li> <li>・長野県岳連、ヒマラヤ・ギャチュンカン登頂</li> <li>・オリンピック東京大会開催</li> <li>・県教委、高校生の冬山登山禁止を通達</li> </ul>

年度	山 岳 部 の 活 動	山岳界・社会・学校のできごと
昭和40 (1965)	<p>色川卓 (3年)、米倉逸生、久保田元久、岡村信一、田口昭、加藤健二 (2年)、伴賢二 (1年)</p> <p>・ 5 / 1 ~ 3 乗鞍岳 ・ 5 / 22 ~ 24 樽池 ~ 白馬岳 ~ 白馬鑓ヶ岳 ~ 猿倉 ・ 7 / 21 ~ 26 濁沢合宿 (東稜、北尾根等) ・ 8 / 4 ~ 7 上高地 ~ 槍ヶ岳 ~ 双六岳 ~ 雲の平 ~ 七倉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アメリカ、ベトナム戦争北爆開始</li> <li>・ 中学生の高校進学全国平均70%を超える</li> <li>・ 長野県庁舎起工式</li> <li>・ 芳野満彦らアイガー北壁登攀</li> <li>・ 上高地ベースキャンプ用新天幕購入</li> <li>・ 松代群発地震</li> <li>・ 中央線甲府・松本間電化完成</li> <li>・ ネパール・ヒマラヤ登山禁止令を出す</li> </ul>
昭和41 (1966)	<p>C. L 米倉逸生、S. L 久保田元久、岡村信一、山崎文男 (3年)、伴賢二、穂苅康治 (2年)、青木澄夫、小野光比古、小沢清文 (1年)</p> <p>・ 4 / 23 ~ 24 針ノ木岳 ・ 5 / 21 ~ 23 風吹大池 ~ 白馬三山縦走の予定だったが、悪天候のため風吹大池にて中断 ・ 6 / 18 ~ 19 白馬岳 ・ 7 / 28 ~ 31 B. C 設営、合宿 (前穂 ~ 奥穂、大滝山、徳本越えにて帰松) ・ 8 / 6 ~ 10 黒四ダム ~ 赤牛岳 ~ 高原 ~ 黒部五郎岳 ~ 槍ヶ岳 ~ 上高地、赤牛岳の登り「…間もなく急登の連続となり、朝で涼しいにもかかわらず苦しい。…水場がなく葉の上の露をすすりながら進む。」・ 10 / 1 ~ 2 針ノ木岳「夕飯後全員で山歌等を歌う。あたりに歌声が響き、秋山の静けさとすがすがしさを一層感じさせる。まくり出しなので皆一生懸命歌っていると、何か寂しさを感じる。先輩ご苦労様という気持ちを歌に込めて歌っている。火も消えかけて来て少ししか燃えていないのでコンパをやめてテントにもぐりこみ、深い眠りに入る。」・ 11 / 21 ~ 22 冬山偵察、荷上げ (遠見尾根) ・ 12 / 28 ~ 31 遠見尾根</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全岳連解散、日山協に</li> <li>・ 中国文化大革命</li> <li>・ 長野県営松本空港営業開始</li> <li>・ 山岳部、新部室に入る</li> <li>・ 「とんぼ祭を送る歌」できる</li> <li>・ 植村直己、モンブラン、キリマンジャロに単独登頂</li> </ul>
昭和42 (1967)	<p>C. L 伴賢二、S. L 穂苅康治 (3年)、青木澄夫、小野光比古、小沢清文、矢口博文、太田宗広 (2年)、古幡開太郎、小口秀雄 (1年)</p> <p>・ 3 / 16 ~ 19 スキー合宿 (八方尾根) ・ 4 / 22 ~ 23 燕岳 ・ 5 / 20 ~ 23 風吹大池 ~ 白馬三山縦走「過去天候に恵まれずなかなか完全踏破できなかったルートであったが、今回は完踏することができた。途中カモシカと接近遭遇し感動したとの記録有り。」・ 7 / 22 ~ 25 黒四ダム ~ 赤牛岳 ~ 雲の平 ~ 伊藤新道 ~ 東沢、縦走の途中、部員の負傷、OBの事故連絡 などが、予定を変更し下山 ・ 8 / 1 西穂高岳独標にて学校登山中の深志高2年生に落雷遭難事故発生、11名が死亡。高校登山史上最悪の惨事となる。この遭難はその後の山岳部の活動にも影響を与えることとなった。以降12月まで部活動としての登山自粛。・ 12 / 2 ~ 3 冬山偵察 (黒沢尾根) ・ 12 / 28 ~ 31 黒沢尾根「我々の冬山合宿が後二週間後に迫って来た。今夏の西穂での落雷事故により、一時は部内でも諦めムードが漂っていたが、何らかの制限はあるにしろ何とかできることはうれしい。しかしこの裏には我々にある程度の山への認識と自覚をもつことが当然要求されている。我々は少なくともこれらの要求にこたえられるだけの勉強と努力が必要である。このことも西穂の事故に類似した事故を再発させないことに通じるのである。我々は彼らの教訓を生かさねばならない。…」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2.11 建国記念日と制定さる</li> <li>・ 県教委、公務員統一行動に関し高校関係者115人を訓告処分</li> <li>・ 8 / 1 深志高校2が九年集団登山パーティー、西穂高岳稜線上独標で落雷に遭い、11名死亡13名重軽傷を負う</li> <li>・ 8 / 10 遭難生徒11名の合同学校葬</li> <li>・ 新図書館竣工、六角便所とりこわし</li> <li>・ 小西政継パーティー、マッターホルン冬季北壁登攀</li> <li>・ 今井通子ら、マッターホルン北壁女性初登攀</li> </ul>

年度	山 岳 部 の 活 動	山岳界・社会・学校のできごと
昭和43 (1968)	<p>C. L 青木澄夫、S. L 小野光比古、小沢清文、矢口博文、太田宗広 (3年)、古幡開太郎、小口秀雄、成合修平 (2年)、兵藤元史、三輪力、宇留賀修、斎藤伸夫 (1年)</p> <p>・ 3/16~19スキー合宿 (八方尾根) ・ 5/3~5北八ヶ岳縦走 (天狗岳~蓼科山) ・ 5/25~27針ノ木岳~鹿島槍ヶ岳 ・ 6/15~16高体連山岳部講習会参加 (黒沢高原) ・ 7/14上高地B. C設営 ・ 8/16上高地B. C撤収、上高地B. C生活このころ上高地では夏になると大学山岳部や中信地区の高校山岳部が大テントを小梨平に設営しB. Cとして利用しており大層賑やかであった。我が山岳部も設営時から撤収時まで部員が交替で管理人 (通称ベークャン当番) として常駐しており、B. CをおとずれるOBとの交流を通じて多くの薫陶を得ることができた。上高地でのB. C生活に貴重な青春の思い出を有するOBも数多いと思う。 ・ 7/21~25烏帽子岳~三俣蓮華岳~雲の平~槍ヶ岳~天狗原~上高地 ・ 7/31~8/3上高地B. C合宿 (徳本峠より入山、西穂、前穂、奥穂、蝶ヶ岳を経て下山) ・ 8/1西穂高岳追悼登山。この年以降8月1日の西穂高岳追悼登山が恒例行事となった。 ・ 9/29~30唐松岳~五竜岳 ・ 11/21~22冬山偵察、荷上げ (遠見尾根) ・ 12/28~31遠見尾根</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ベトナム和平パリ会談始まる</li> <li>・ 黒人運動者キング牧師暗殺</li> <li>・ 明治百年祭</li> <li>・ 川端康成ノーベル賞受賞</li> <li>・ 植村直己、アコンカグア単独登頂、続いてアマゾン川源流から6,000kmを筏で下る</li> </ul>
昭和44 (1969)	<p>C. L 古幡開太郎、S. L 成合修平、小口秀雄 (3年)、兵藤元史、三輪力、宇留賀修、和田忠彦 (2年)、植松晃岳 (1年)</p> <p>・ 3/15~18スキー合宿 (八方尾根) ・ 5/3~5徳本峠~霞沢岳の予定であったが、体調不調者あり、途中で断念 ・ 5/24~26燕岳~常念岳の予定であったが、悪天候のため燕岳より下山 ・ 6/6深志・清陵交歓会にて清陵高山岳部と交歓 ・ 7/12~13上高地B. C設営、徳本峠より下山 ・ 7/20~24後立山縦走 (白馬岳~針ノ木岳) ・ 7/31~8/3上高地B. C合宿天候不順のため予定の行動できず、蝶ヶ岳を経て下山 ・ 10/25~26有明山 ・ 11/22~23冬山偵察、荷上げ (大滝山) ・ 12/28~31大滝山</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 月着陸船アポロ11号人類初の月到着に成功</li> <li>・ 東名高速道路全通</li> <li>・ 加藤滝男ら、アイガー北壁を直登</li> </ul>
昭和45 (1970)	<p>C. L 三輪力、S. L 兵藤元史、宇留賀修、和田忠彦 (3年)、植松晃岳、丸山建利、植松武昭 (2年)、田中晃、下川裕治、井上禎夫、熊井清雄、上条弘明、塚原洋一 (1年)</p> <p>・ 3/15~18スキー合宿 (八方尾根) ・ 4/25~26燕岳 ・ 5/23~25風吹大池~白馬岳の予定であったが、小蓮華岳にて断念</p> <p>・ 1970. 6 顧問小野朋士編著「山と天候」より「山の気象」山登りの楽しさを左右する要素はたくさんあるが、天候の状況ほど大きな影響を与えるものは他になからう。</p> <p>快晴の夜明け、強い日差しに映える雪渓、微妙な変化を見せながら暮れる夕映えの山、手の届くような星空。天候に恵まれた山行きは、生徒達に計り知れないほどのすばらしいものを与えてくれるであろう。</p> <p>しかしその反面、一度荒れ始めた山は、視界を奪い、体温を奪い、果ては生命までも奪いかねないのである。だから我々が登山を計画する場合には、天候の良否をすべてに優先させて考えなければいけない。そして天候の安定した時期を選んで計画を立てるだけでなく、入山の前にも天</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国連、核拡散防止条約発効 (調印97ヶ国)</li> <li>・ カンボジア政変</li> <li>・ 日本万国博覧会 (大阪)</li> <li>・ 日航機よど号乗取り事件</li> <li>・ 日本山岳会パーティー (隊長松方三郎) エベレスト登頂</li> <li>・ 三浦雄一郎、エベレスト・サウスコル直下7,780m地点からスキー滑降</li> <li>・ 厚生省、自然保護憲章制定</li> <li>・ 植村直己、マッキンリーに単独登頂</li> </ul>

年度	山 岳 部 の 活 動	山岳界・社会・学校のできごと
	<p>候変化の傾向に気をつけていて、場合によっては計画を変更できるだけの柔軟性を持たせるべきだろう。</p> <p>この計画段階で天候の条件を慎重に検討することによって、現場の引率者に天候の判断のすべてを任せ、負担を大きくし過ぎないように気をつけるべきである。</p> <p>登山行事の立案や変更のとき、他の学校行事や学習計画まで変更しなければならなくなっても、生徒達の命がかかっているのだからやむを得ないだろう。</p> <p>・7/22～26黒四ダム～赤牛岳～高天原～双六岳～新穂高～上高地、「我々山岳部は、S45年の夏山山行として、7月22日～7月26日北アルプス縦走を行った。幸いにして5日間とも天候に恵まれ、また皆無事下山できたことをここで再び喜ぶものである。各自それぞれこの山行が大いに意義があったことを認め、自然の偉大さに敬服し、ここにその記録を記す。…」</p> <p>・7/31～8/3上高地B.C合宿(徳本峠より入山、西穂、前穂、奥穂、蝶ヶ岳を経て下山)</p> <p>・10/10～11餓鬼岳～燕岳</p> <p>・11/21～22冬山偵察、荷上げ</p> <p>・12/28～31遠見尾根</p>	
昭和46 (1971)	<p>C. L 植松晃岳、S. L 丸山建利、植松武昭(3年)、田中晃、井上禎夫、熊井清雄、上條弘明、塚原洋一、上條健、熊井清雄、古畑嘉弘(2年)、篠原敏宏、小林直樹、加藤安二、小林雅行、高山正雄、田多井泉(1年)</p> <p>・3/16～19スキー合宿(八方尾根)</p> <p>・5/2～4北八ヶ岳縦走(天狗岳～横岳)「5月3日…清陵高校山岳部と交歓会。写真を撮ったり、“金色の民いざやいざや”をやったり。あちらはこちらを8ミリでジージージー。このへんで差が出る。清陵は南八ヶ岳に行くそうだ。少々うらやましい。…」</p> <p>・5/22～24針ノ木岳～鹿島槍ヶ岳、5/22マクボのCOLへ「…雲が風に吹き飛ばされるように頭上を走って行く。雲量が多くなって来たようだ。アイゼンをつけ再び雪渓を上る。…COLにたどり着いた時、視界が360度を開けた。そして眼前に立山連峰が聳え、その下には黒部湖が見えた。“なんてすばらしいながめなんだ!” 日焼けした顔に当たる風もさわやかに感じられた。張り詰めた気持ちが一遍に緩んでしまった。こんな感じこそ山に登らずには味わえないものの一つであるように思った。…」</p> <p>・7/21～25烏帽子岳～雲の平～黒部五郎岳～槍ヶ岳～上高地の予定であったが、悪天候に阻まれ野口五郎にて停滞、その後引き返し七倉へ下山</p> <p>・8/1～4唐松岳～白馬岳～朝日岳～蓮華温泉</p> <p>・10/30～31有明山</p> <p>・11月21～22冬山偵察、荷上げ(白馬乗鞍岳)</p> <p>・12/28～31樺池～白馬乗鞍</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中華人民共和国、国連加盟、台湾脱退</li> <li>・アラブ共和国連邦発足</li> <li>・沖繩返還協定調印</li> </ul>
昭和47 (1972)	<p>C. L 田中晃、S. L 井上禎夫、上条弘明、塚原洋一、下川祐治、上条健、熊井清雄、古畑嘉弘(3年)、篠原敏宏、小林直樹、小林雅行、加藤安二、高山正雄、田多井泉(2年)、浅村隆、松岡文夫、土屋公明、滝沢道夫</p> <p>・3/15～18スキー合宿、八方尾根</p> <p>・4/29～30新人歓迎、中房～燕</p> <p>・5/20～22春山残雪山山行、北小谷～風吹大池～白馬～樺池</p> <p>・7/23～27夏山縦走、広河原～北岳～間ノ岳～農鳥～塩見～三伏峠、台風により北岳手前から鳳凰三山經由御座石鉱泉へ変更</p> <p>・8/2～5夏山合宿、横尾～北穂・奥穂、横尾～槍、横尾～蝶・大滝・展望台</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国連、海洋汚染防止条約調印(57ヶ国)</li> <li>・ウオーターゲート事件</li> <li>・E C加盟条約調印</li> <li>・ミュンヘンオリンピック大会</li> <li>・バングラディッシュ独立</li> <li>・朝鮮半島南北会談始まる</li> <li>・田中首相中国訪問、日中国交正常化成る</li> <li>・マナスルで韓国隊遭難、15名死亡</li> <li>・植村直己、グリーンランド往復3,000km犬橇単独旅行</li> </ul>

年度	山 岳 部 の 活 動	山岳界・社会・学校のできごと
	10/14～15秋山まくりだし、木曾駒ヶ岳 ・11/25～26冬山・荷揚げ、遠見尾根 ・12/28～31冬山・本番、遠見尾根	
昭和48 (1973)	<p>C. L 篠原敏宏、S. L 小林直樹、小林雅行、加藤安二、高山正雄、田多井泉 (3年)、浅村隆、松岡文夫、土屋公明、滝沢道夫 (2年)、鈴木一、中野俊、赤羽千明、藤森俊之 (1年)</p> <p>・3/19～22スキー合宿、乗鞍岳「夜は月夜で明るい。位が原のテント場付近は青白く幻想的だ。月明かり下でスキーをやった。こんな経験はやたらにできない。後傾の青山先生のスキーも幻想的な月明かりの下では上手に見える。」</p> <p>・4/29～30春山新人歓迎、一ノ沢～常念岳 ・5/26～28春山残雪山行、白馬大池～小蓮華岳～白馬岳～猿倉 ・7/22～25涸沢～南岳・奥穂・前穂～蝶・三又 ・8/1～5夏山縦走、中房～燕～大天井～槍～三俣蓮華～烏帽子岳</p> <p>・10/27～28秋山まくりだし、一ノ沢～常念岳 ・74/3/15～18スキー合宿、八方尾根</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際通貨危機</li> <li>・第4次中東戦争、石油危機発生</li> <li>・東西ドイツ国連加盟</li> <li>・ベトナム和平協定調印</li> <li>・京大パーティー、ヤルンカン登頂</li> </ul>
昭和49 (1974)	<p>- F A C 「嶺雲」による -</p> <p>浅村、松岡、滝沢、土屋、西沢 (3年)、鈴木、中野、赤羽、藤森 (2年)、八賀、兵藤、大沢、宇留賀、宮島 (昭)、奥原 (1年)</p> <p>・4/28～29扇沢～爺ヶ岳 ・5/25～27茅野～権現岳～赤岳～硫黄岳 ・10/19～20秋山まくりだし、有明山「山路を登りながら、こう考えよう。智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。とかく人の世は住みにくい。と思って北松本から電車に乗る。折悪しく秋霖。ときに昭和49年10月19日。有明からタクシーで黒川沢出合迄入る。雨はしとしと、紗をかけた様に我等が行手を霞ませている。-中略-星影途絶えた幽谷に、ひっそり閑と天幕一つ。ほんとは二つ。鼓膜を震わすものとは問えば、谷間に響く水の音。木の葉を泣かすは秋の雨。かさり。物音途絶えた天幕に、枯葉が落ちしか一つ二つ。」</p> <p>・11/21～22冬山偵察荷揚げ、遠見尾根「神城駅に着き、先ず遠見小屋の主人である下川又寛さんのお宅に挨拶に伺い、遠見小屋に12月までデポの品物を預かって頂くことの許可を頂いた後出発する。スキー場まで30分、雪はまばらで地肌が見えているので、尾根末端より登り始める。-中略-冬山は、自らがルート開拓者である。そういう喜びを登山者に味あわせてくれるのではないかと思う。そうこうしながらも、とうとう時間切れとなり、小遠見肩の八方尾根斜面にてデポ。」</p> <p>・12/27～30冬山本番、遠見尾根 ・75/3/16～19冬山スキー合宿、遠見尾根 ・75/3/16～19スキー合宿、八方尾根</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田中首相の金脈問題起こる</li> <li>・佐藤栄作ノーベル平和賞受賞</li> <li>・植村直己、北極圏12,000km犬橇単独走破</li> </ul>
昭和50 (1975)	<p>- F A C 「嶺雲」による -</p> <p>鈴木、中野、赤羽、藤森 (3年)、八賀、宮嶋 (昭)、兵藤、宇留賀、大沢、奥原 (2年)、加々美、傘木、黒岩、水谷、宮嶋 (勉)、三代沢 (1年)</p> <p>・4/26～27新人歓迎、鉢盛山 ・5/17～19高体連講習会、針ノ木雪渓「僕らは北松本駅へ。前に行くHigh(注)の山岳部を眺めながら僕らの気持ちは、降る雨にもかかわらず上々であった。-中略-どしゃぶりの雨の中、青山先</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田部井淳子ら日本女子登山隊、世界初の女性エベレスト登頂者となる</li> </ul>



年度	山 岳 部 の 活 動	山岳界・社会・学校のできごと
	<p>生が戻ってくる。登高とりやめ。交歓会、テント訪問に変更とのこと。はにかみ屋ぞろいの深志山岳部。もちろんこのテントへも行けない。どこからもこない。無情の雨の中、僕らはさびしく火をもやす。－中略－講習会がすんで約1カ月後、Highの山岳部から手紙がきたのだった。それに曰く、－講習会では、一言も話せませんでしたがかんなに近くにある学校ですからもっと交流を深めたいものです云々。－我々が喜んだのはいうまでもないが、その後失敗に終わったのもまたいうまでもないことだろう。」(注) 蟻ヶ崎高校のこと。・5/24～26春山山行、針ノ木岳「新人が8人もはいて山岳部は盛況である。(云うまでもなく)財政のほうは慢性的に不況なのだから春山は装備の面でまず行き詰まった。ウインパー、ピッケル…それが解決すると次は職員会議。山行直前まで計画が定まらず部内は動揺した。」・6/7～8インターハイ、風吹大池・7/21～24夏山縦走、広河原～北岳～熊ノ平～北荒川岳～塩見岳～三伏～伊那大島・8/2～5、夏山合宿、瀬沢</p> <p>・山岳部のクロ－さて次に愛犬クロのことであるが、あの犬は愚図で、餌に簡単につられてしまうような犬だが、今年の夏上高地にいた頃の話によると、OBの方といっしょに北穂、西穂に登ったり、一匹で穂高の山稜を歩き回っていたなどという逸話もある犬で、どうも平地より高地に適するようである。正に山岳部の犬としてふさわしいと言うべきか。クロは我々が去年の夏に拾ってきて、梓川で産湯につかり、五倍位の大きさに成長した。今やクロは「山岳部のクロ」の他何物でもない。親身になって面倒をみて欲しい。その内前代クロのような立派な「御犬様」となって、NHKからお声がかかるかもしれない。－</p>	
昭和51 (1976)	<p>－当時顧問・渡会意士氏の資料による－ C. L八賀、S. L兵藤、宮島、宇留賀、大沢(3年)、加々美、水谷、黒岩、三代沢、傘木(2年)、国広、二木、赤沼、大淵(1年)、女子、田波、二木(3年)</p> <p>・新人歓迎4/24～25中房～燕岳・春山合宿5/3～5 梅池～白馬大池・訓練山行6/12～13梅池～白馬大池・ 県高校登山大会5/28～30北小谷～風吹岳・インターハイ 設営隊研修会7/10～11大町山岳総合センター・上高地 B. C設営7/17～18上高地・夏山縦走A隊7/22～2 6大町～針ノ木峠～立山～剣岳～宇奈月・夏山縦走B隊 7/23～27大町～針ノ木峠～奥黒部～東沢～黒部源流～薬 師沢～太郎平～富山「梅雨明けを待って計画より1日遅れ て出発。沢歩きが中心ということで農業用地下タビだけで 全コースを歩いたが、第1日目の針ノ木雪渓はワラジをつ け、枝を拾ってやっと登る。下りの沢は足の裏に小石があ たると跳び上がるほど痛い。川原の白砂の上でビバーク。 第2日の南沢は腰まで水に浸って、アッチ、コッチと何十 回も渡渉。夕食は水を利用したソーメン。川原の石の上に 濡れたものを乾かす。第3日、早朝の南沢の雪渓は足が凍 るほど。祖父平のビバーク地点は釣り人の泊まった跡。柳 についていた毛虫をエサに大型のイワナを釣り夕食のお菜 に。第4日、黒部川が水量を増す。第5日。猛暑の富山駅 へ。号外が張り出される。なんと『内閣総理大臣田中角栄 逮捕される!』と。5日間、一つの山頂もふまず。すごい</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカ、人工衛星バイキング1号火星到達</li> <li>・ロッキード疑獄事件</li> <li>・ベトナム統一宣言</li> <li>・IMF世界銀行第1回会議</li> <li>・深志創立100周年記念事業</li> </ul>

年度	山 岳 部 の 活 動	山岳界・社会・学校のできごと
	<p>計画を立てたものだ。」・インターハイ幕营地キーパー            8/4～7白馬尻・上高地B.C撤収8/18上高地            秋山(まくりだし)山行10/16～17中房～東沢乗越～餓鬼            ・冬山偵察山行(下見)12/4～5須砂渡～三股～常念            ・冬山合宿12/28～30偵察同様・スキー合宿3/14～17八方尾根第一ケルン</p>	
昭和52 (1977)	<p>－当時顧問・渡会意士氏の資料による－            C.L黒岩、S.L宮島、傘木、加々美、水谷、三代沢(3年)、大淵・赤沼(2年)、滝沢・務台・佐野・竹内(1年)女子、二木(3年)、柳沢、小松(1年)            ・新人歓迎訓練山行4/23～24遠見尾根・春山合宿5/1～2爺ヶ岳往復・高校登山指導者研修会5/20～22山岳センター～針ノ木・県高校登山大会6/10～12飯綱戸隠・新人歓迎山行6/18～19須砂渡～蝶が岳・上高地B.C設営7/16～17上高地・夏山縦走7/24～28五竜～白馬～朝日～日本海「8月24日、朝僕は初めて長期縦走登山に希望と不安をいだいて、人もまばらな始発列車に乗った。初日我々がめざすのは五竜岳であった。我ら一年生はばてながらも無事幕营地につき寝つかれぬ一夜をあかした。翌日は冷たい雪渓の水で顔を洗って出発した。不帰の険、天狗の大登り、僕はばてにばてた。3日目は好天に恵まれて、白馬頂上よりすばらしい景色を眺めた。その日は意外に足取りが軽かった。4日目、犬ヶ岳に水がなく苦しい山行だった。21日漁火をみながらビバーク。翌最終日はツクツクホーシが鳴く中、とうとう親不知海岸にでた。」・夏山合宿8/2～5潤沢～北穂～屏風の頭・B.C撤収8/17上高地・秋山合宿(まくりだし)10/22～23八ヶ岳(行者小屋)・女子秋山合宿10/9～10三又～常念～燕～中房・中信高校登山技術講習会10/22～23扇沢、爺ヶ岳・冬山偵察山行12/3～4須砂渡～くずれ沢～尾根・冬山合宿12/27～30・春山合宿3/29～31天狗原～白馬大池～小蓮華</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円高、ドル安進み1ドル250円を割る</li> <li>・ベトナム国連加盟</li> <li>・長谷川恒男、マッターホルン北壁冬期単独初登攀</li> <li>・日本山岳協会隊、K2登頂</li> </ul>
昭和53 (1978)	<p>－当時顧問・渡会意士氏の資料による－            C.L大淵、S.L赤沼(3年)、滝沢、務台、佐野、細田、竹内、平田、三苦(2年)、板倉、中島、常田、上條(1年)、女子、柳沢・小松(2年)            ・新人歓迎訓練山行4/29～30燕岳・高校登山指導者講習会5/19～21山岳センター～針ノ木雪渓・県高等学校登山大会(第7回)6/10～11飯綱山～戸隠山・上高地B.C設営7/14～15小梨平・男子夏山縦走7/23～27針ノ木～東沢～双六～新穂高～上高地「夏休み私たちは針ノ木、東沢をへて裏銀を縦走するというルートで夏山縦走を実施した。針ノ木の大雪渓は私にとっては初めての体験だったのでその壮大さにびっくりした。2日目は、東沢に入るところでルートを間違ひ6時間も計画より遅れたが、沢歩きのよい勉強となった。次の日は前日の遅れもだいぶとりもどして三俣蓮華までいくことができた。途中雪にあい震えていたことがおもいだされる。4日目、計画では行く予定だった笠ヶ岳は病人がでたり天候が気になったのでみあわせた。ちょっと残念だったが登山ではこれがおきてというものだ。」・女子夏山縦走8/9～11猿倉～白馬～八方尾根・夏山合宿8/2～4潤沢(北穂)・上高地</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NGO軍縮会議(ジュネーブ)</li> <li>・中東和平3国会議</li> <li>・日中平和友好条約調印</li> <li>・成田空港開港</li> <li>・長谷川恒男、アイガー北壁、冬期単独初登頂</li> <li>・植村直己、犬橈で北極圏単独横断</li> </ul>

年度	山 岳 部 の 活 動	山岳界・社会・学校のできごと
	B. C撤収8/19上高地 ・秋山山行(まくりだし) 10/28~29 ・冬山偵察(荷上げ) 12/2~3黒沢尾根 ・冬山合宿12/28~30黒沢尾根 ・春山合宿3/29~31梅池~白馬大池	
昭和54 (1979)	<p>             -当時顧問・渡会意士氏の資料による-              C. L 務台、S. L 滝沢、佐野、平田、細田、三苦(3年)、常田、上條、板倉、中島、宮坂(2年)、奥原、宮原、浅野、花岡(1年)、女子、C. L 滝沢、S. L 小松(3年)、倉沢、高木、小平、下坂、渡辺(1年)              ・新人歓迎山行4/29~30餓鬼岳(白沢経由) ・女子部新人歓迎山行5/19~20蝶が岳(三俣経由) ・高校登山指導者研修会5/19~21山岳総合センター~針ノ木雪渓              ・県高等学校登山大会兼インターハイ予選6/8~10木曾駒ヶ岳 ・上高地B. C設営7/7~8帰り徳本峠越え ・夏山縦走7/22~26針ノ木~五色ヶ原~剣沢~阿曾原「我々のメインイベントともいえるべき夏山縦走は扇沢からはじまった。大沢小屋の前の慎太郎レリーフを横目で見ながらしばらくいくと針ノ木大雪渓にとりつく。技術的にまだまだ未熟な私たちにとって雪渓登り、それに南沢出合迄の沢歩きはなかなか容易ではなかった。次の日は五色が原までいった。翌日は通称立山を通り剣沢まで行った。立山では軽装した登山者(観光客といったほうが妥当であろうか)が数多くいたが、これ以上この付近を開発し、立山を一層つまらない山にしてしまうことだけは極力さけてもらいたいものである。」 ・女子部夏山縦走7/28~29八方~唐松往復              ・夏山合宿8/2~5潤沢 ・B. C撤収8/20 ・中信高校登山講習会10/6~7松川(馬羅尾) ・女子部秋山山行10/20~21風吹大池~天狗原~梅池 ・秋山山行(まくりだし) 10/27~28鹿島槍(高千穂平) ・冬山偵察12/1~2遠見尾根 ・冬山合宿12/28~30遠見尾根(白岳) ・スキー合宿3/8~10 ・春山合宿3/15~17常念岳(三俣経由)           </p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先進5ヶ国首脳会議、東京で開催(東京サミット)</li> <li>・無人単探査機ボイジャー1号木星写真送信</li> <li>・イギリス、サッチャー内閣成立</li> <li>・ソ連、アフガニスタン侵攻</li> <li>・木曾御岳噴火</li> <li>・長谷川恒男、グランド・ジョラス北壁、冬期単独初登攀(3大北壁登攀達成)</li> <li>・中国が外国登山隊の受入れ開始、ヒマラヤへの北面からのアタック可能となる</li> </ul>
昭和55 (1980)	<p>             -当時顧問・渡会意士氏の資料による-              C. L 常田、S. L 上條、板倉、中島、宮坂(3年)、浅野、宮原、奥原、花岡、百瀬(2年)、浅輪、重野、筒井(1年)、女子、高木、渡辺、下坂、倉沢、小平(2年)、舟田、小沢(1年)              ・新人歓迎山行(男子) 5/3~4鉢盛山 ・新人歓迎山行(女子) 5/3~4燕岳 ・訓練山行(女子) 5/24~25蝶が岳 ・高校登山指導者講習会5/31~6/2山岳センター~針ノ木 ・県高等学校登山大会6/13~15木曾駒ヶ岳 ・上高地B. C設営7/5~6小梨平 ・夏山縦走(男子) 7/23~27南アルプス、北岳~熊ノ平~塩見岳~荒川岳~広河原~伊那大島 ・夏山縦走(女子) 7/26~29扇沢~針ノ木岳~赤沢岳~岩小屋沢岳~爺が岳~布引岳~大谷原「扇沢から針ノ木へ向かって私たちの縦走ははじまった。初日は無事峠についたが、午後からは天気は下り坂に向かい、次の日の朝は雨となった。それゆえ出発がおくれ、霧のために視界がきかず、針ノ木岳への道を間違え、だいぶ時間をロスしてしまった。また、ひとりが完全にバテたため予定を変更して新越乗越に泊まった。しかし天気は多少回復し、黒部湖や立山・剣の景観は素晴らしかった。           </p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モスクワオリンピック、日米など不参加</li> <li>・アフリカ各地の民族紛争激化</li> <li>・イラン・イラク戦争起こる</li> <li>・日本山岳会隊、北壁と東北稜からチョモランマ(エベレスト)に登頂</li> </ul>

年度	山 岳 部 の 活 動	山岳界・社会・学校のできごと
	<p>3日目は爺ヶ岳の頂上で昼寝と日光浴を楽しんだ。最終日は霧の中を鹿島槍へとむかって歩いた。途中たくさんの雷鳥に出会う。頂上を踏んだ喜びもつかのま、そこの石の陰に置かれていた葬式の写真をみたときはとても不気味だった。」・夏山合宿(男子・女子) 男子8/1～5女子8/2～5 酒沢～北穂～前穂 ・上高地B. C 撤収8/18 ・秋山山行(まくりだし) 男子10/25～26中房～東沢岳</p>	
昭和56 (1981)	<p>－当時顧問・渡会意士氏の資料による－ 浅野、宮原、奥原、花岡、百瀬、山田(3年)、筒井、浅輪、重野、進藤(2年)、上條、草間、新保(1年)、女子部、高木、渡辺、下坂、倉沢、小平(3年)、舟田、小沢(2年)、帯刀、竹内、太田(1年) この年の山岳部は男子13名、女子10名と、男女比がほぼ拮抗し、賑やかであった。縦走は男女別で行なわれている。 ・5/3～4蝶ヶ岳、常念岳(男女別) ・5/15～16訓練山行、常念岳(女子) ・5/30～6/1針ノ木雪溪 ・6/5～7浅間山～湯の丸 ・6/20～21燕岳 ・7/11～12B. C 設営 ・7/27～31男子縦走「初日は黒部ダムから歩き始めたが、平の小屋からは新人としては苦しい登りで照りつける太陽のためバテた者も2、3人いた。2日目は12時間行動で薬師へ。その登りは真に自己との戦いであった。－中略－4日目は湯俣の温泉めがけてガッツで登り、道が悪い竹村新道も温泉があると思えば何のその。最終日は七倉までパワーで突っ走った。」 ・7/28～31女子縦走「1日目の幕営地がひどい傾斜で朝起きると荷物と人間が下にたまっていたこと。幕営禁止の所にテントを張って夜の9時頃泣きながら移動したこと。槍で1年生が倒れたことなどハプニングの連続だったが、それ故に思い出深く、山のマナー、健康管理、部員の協力など学ぶことの多い山行だった。」 ・8/6～10酒沢合宿(男女合同) ・8/17B. C 撤収 ・10/17～18常念岳、蝶ヶ岳 ・10/24～25有明山 ・12/5～6冬山偵察、美ヶ原 ・12/27～28冬山本番～美ヶ原 ・82/3/13～16五竜～遠見尾根</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・OPEC臨時総会で原油基準価格統一</li> <li>・田部井淳子ら女子登山隊シシャパンマ登頂</li> </ul>
昭和57 (1982)	<p>－当時顧問・渡会意士氏の資料による－ 筒井、浅輪、重野、進藤、米山(3年)、上條、新保、草間(2年)、百瀬、中村、寺島(1年) 女子部、舟田、小沢(3年)、帯刀、竹内、太田(2年)、西沢(1年) ・5/15～16鉢盛山(男子) ・5/15～16前常念岳(女子) ・5/29～31山岳センター～針ノ木雪溪 ・6/4～6八ヶ岳 ・7/18～19B. C 設営 ・7/25～29男子縦走「今年の夏山は残念ながら、天候に今一つ恵まれなかった。縦走は南ア・塩見岳－熊ノ平－三峰岳－両俣小屋－仙丈岳へ行ったのであったが、このうち天候が安定し、展望が開けたのは、仙丈岳のみで、あとは道を見つめる山行となった。」 ・7/27～30女子縦走「今回は2人のOGが加わり、8人というかなり大きなパーティーだったのだが、2日目の夜から天候がくずれ、恐怖の一夜を過ごした。翌日(3日目) 1度撤収したものの、天気は最悪で、ものすごい風の中、テントをはり直した。それは、もうすごい風で、物は飛ばされ、人も飛ばされ・寒いし、怖いしで(帰れないんじゃないか・どうしよう!) などとかが</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国連環境特別会議、ナイロビ宣言採択</li> <li>・フォークランド諸島紛争</li> <li>・米ソ戦略兵器削減交渉開始</li> <li>・東北、上越新幹線開通</li> <li>・日本山協隊、北面よりチョゴリ(K2) 登頂</li> <li>・新貝敷ら無酸素でK2登頂</li> <li>・加藤保男ら厳冬期エベレスト登頂後行方不明</li> <li>・八ヶ岳、中岳沢雪崩遭難12名死亡</li> </ul>

年度	山 岳 部 の 活 動	山岳界・社会・学校のできごと
	<p>えたりもしたが、今振り返ると一生忘れることのできないよい経験だったと思う。」・8/6～9 澗沢合宿 ・8/18B. C 撤収 ・10/16～17 上松～木曾駒 ・10/23～24 山岳センター～爺ヶ岳 ・12/4～5 梅池～白馬大池 (冬山偵察) ・12/26～29 梅池～白馬大池 (冬山合宿) ・82/3/13～16 五竜遠見</p>	
<p>昭和58 (1983)</p>	<p>－当時顧問・渡会意士氏の資料による－ 上條、新保、草間 (3年)、寺島、中村、百瀬 (2年)、笠原、西條、桜井 (亘) (1年) 女子部、帯刀、竹内、太田 (3年)、西沢 (2年)、倉沢、北沢 (1年) ・5/14～15 蝶ヶ岳 (男子) ・5/22～23 常念岳 (女子) ・5/28～30 山岳センター～針ノ木雪渓 ・6/3～5 常念岳周辺 (県大会) ・7/17～18 B. C 設営 ・7/28～8/1 男子縦走「中でも5日目は生涯忘れることはできないだろう。大雨のためみるみるうちに水量を増す濁流。そこをザイルをわたして渡るのだ。水量は腰ぐらまでであり足をすくわれる。あわや流されそうになる。そのときみんなは一つだった。ただ今のピンチを打破すべく、一心にとりこんでいた。そのうちにも中州は泥水で覆われていく。早く早く！ やっと渡りおえ林に避難。ふと右を見ると登山道がある。しかし、道は川で寸断されていた。『小屋が見えるぞ！』 やっと峠にたどりついた。そのときみんなの顔に消えていた笑いがもどった。」・7/28～30 女子縦走「目前に目標があるのに、一向に着かない長い鎌尾根はクセモノだった。1日目に比べ、疲れもあるし、猛暑の中を歩くのだから、ほとんど放心状態？だった。」・8/6～9 澗沢合宿～槍ヶ岳 ・8/17 B. C 撤収 ・10/15～16 雨飾山 (秋山まくりだし) ・10/22～23 県山岳総合センター ・12/3～4 八方尾根 (偵察) 男子 ・12/27～29 八方尾根～唐松岳 ・84/3/13～16 五竜遠見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソ連軍による大韓航空機サハリン沖撃墜事件</li> <li>・青函トンネル開通</li> <li>・参議院、比例代表制初の選挙</li> <li>・吉野寛ら3名別ルートでエベレスト無酸素登頂、帰途吉野ら2名転落死</li> </ul>
<p>昭和59 (1984)</p>	<p>－当時顧問・渡会意士氏の提供資料による－ 寺島、中村、百瀬 (3年)、笠原、西條、桜井 (亘) (2年)、加藤、百瀬、栗山、橋倉、松森 (1年) 女子部、北沢 (2年)、池田 (1年) ・5/12～13 鉢盛山 ・5/18～20 山岳センター～針ノ木雪渓 ・6/1～3 上高地～蝶ヶ岳 ・7/21～22 B. C 設営 ・7/29～8/2 男子縦走「例年は5日のはずの縦走が今年は1日が海水浴に化けた上、五色ヶ原ではのんびり散策したり、昼寝をしたりしてくつろぎ、天気にも恵まれ、あの剣岳にも登れるなど、今思えば非常に楽しかった山行である。」・7/29～8/1 女子縦走「三俣蓮華岳山頂の展望で山に感動！しているのもつかのま、西鎌尾根にとりついた辺りから天候が一転、雲が湧きはじめ、ムムツ、雨の予感。“さあ急げ” とは言うものの、足はもう上にも上がらなければ、前にも出なくなり、意識なんてほとんどなく、やっとのことで肩の小屋へ。それと同時に豪雨、あられ、落雷。－中略－まあ、楽しくもあり、苦しくもあり、たくましいアルプスの少女(?) になれた、いい山行でした。」・8/5～8 澗沢合宿～槍ヶ岳 ・8/22～23 B. C 撤収 ・10/6～7 山岳センター～爺ヶ岳 ・10/13～14 小谷温泉～天狗原山 ・12/8～9 遠見尾根 (偵察) ・</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アフリカの飢餓、24ヶ国に拡大</li> <li>・日本、世界一の長寿国になる</li> <li>・長野県西部地震</li> <li>・一万円新紙幣発行</li> <li>・ロサンゼルスオリンピック大会、中国不参加</li> <li>・植村直己、マッキンリー冬期単独初登頂その後行方不明</li> </ul>

年度	山 岳 部 の 活 動	山岳界・社会・学校のできごと
昭和60 (1985)	<p>12/27～29遠見尾根 (本番) ・85/3/14～16梅池～白馬乗鞍岳</p> <p>－当時顧問・渡会意士氏の資料による－ 笠原、西條、桜井 (亘) (3年)、百瀬、加藤、巢山、橋倉、松森、松田 (2年)、小沢、市川 (1年) 女子部、北沢 (3年)、池田 (2年)、望月、市ノ瀬、西沢 (1年) ・5/3一之沢～常念 ・5/17～19山岳センター～針ノ木峠 ・5/31～6/2霊仙寺山周辺 (県大会) ・7/20～21B. C設営 ・7/29～8/2男子縦走「それは4日目のこと、浄土山より眼下に室堂の山平野を見下ろした時、私はうれしさで声がでなかった。ああ、やっと苦しい山登りも終りだと。さて降り始めたがなかなかふもとに着かない。まるで山が引きとめているようである。目の前には懐かしい人の暮らしがあるというのに。非常にもどかしかった。そしてやっとふもとまで降り、今降りてきた恨みの山を見上げたとき、考えが変わった。山はとて大きく、雄大だった。ああこんないい山を、もっと味わうべきだった。－中略－つくづく山は奥ふかいよ。君！」 ・7/29～8/1女子縦走「テン場につくのはいつも4時ごろでしたが、ついた時は、全身汗だくだく。最初はそれが嫌でたまらなかったのですが、いつの間にか快いものとなりました。今では自分が出したたくさんの汗が、たくさんの良い思い出を生み出したように思えます。」 ・8/4～6濁沢合宿～南岳 ・8/21B. C撤収 ・10/5～6山岳センター (新人戦) ・10/12～13まくらだし、茅野～渋ノ湯～黒百合平～みどり池～松原湖 ・12/7～8八方尾根 (偵察) ・12/27～28八方尾根～丸山上部 ・86/3/15～17梅池～白馬乗鞍岳</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イラン・イラク間、ミサイル戦激化</li> <li>・科学万博つくば'85</li> <li>・日航ジャンボ機墜落事故、死者520名</li> <li>・チェルノブイリ原子力発電所事故</li> <li>・山田昇ら2名、厳冬期マナスルにアルパインスタイルで登頂</li> </ul>
昭和61 (1986)	<p>－当時顧問・渡会意士氏の提供資料による－ 百瀬、加藤、巢山、橋倉、松森、松田 (3年)、小沢、市川 (2年)、川上、安藤 (1年) 女子部、池田 (3年)、市ノ瀬、望月、西沢、巢山 (2年) この年より「従来の夏山縦走と夏山合宿の日程を逆にし、1年生の山に対する経験を増やす。」とある。 ・5/10～11鉢盛山 ・5/16～18山岳センター～針ノ木峠 ・6/6～8戸隠山麓 ・7/19～20B. C設営 ・7/27～30濁沢 (夏山合宿) ・8/7～11男子縦走「南アルプスの山は、単独峰で1つ1つがばかでかく見えるため、なぜか北アのような山に対する愛着がわいてこない。なんだか山に威圧されているようにも感じた。それは高所にまでおよんでいる樹林帯のせいかもしれない。樹林帯はむしむし暑くて好む人も少ないようである。だから僕の目は自然と足下に向かった。南アルプスは高山植物の宝庫である。－中略－また南アルプスの山道は一部をのぞけば全くゴミが落ちておらずたいへん気持ちのよい山行をさせてもらい、うれしく感じている。」 ・8/9～12女子縦走「そしてあのいまわしい3日目の朝、起床とともに絶望感だけを感じ、おまけに朝食のおにぎりの味にショックを受け (二度と山でおにぎりは食べたくないと思いました。) 要するにひどくまずかったわけですが、・・・そしてキレットを渡ったのでした。」 ・8/20B. C撤収 ・10/4～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニューヨーク株式大暴落</li> <li>・米ソ首脳レイキャビク会談決裂</li> <li>・高橋和之ら厳冬期プロ・リにアルパインスタイルで登頂</li> </ul>

年度	山 岳 部 の 活 動	山岳界・社会・学校のできごと
	5聖高原 ・10/18～19北八ヶ岳 ・12/6～7遠見尾根(偵察) ・12/27～29冬山本番～部員風邪のため中止 ・87/3/16～18拇池～白馬乗鞍岳 ・松中57回卒業生よりベースキャンプテント寄贈(50万円)	
昭和62 (1987)	-当時顧問・渡会意士氏の資料による- 市川、小沢(3年)、川上、安藤(2年)、山元、小川原、三沢、富樫、牛山、西牧(1年)、女子、市ノ瀬、西澤、望月(3年) ・高校登山研修会(男) 5/15～17山岳センター～扇沢 ・新人歓迎山行(男・女) 5/30～31一の沢～常念乗越 ・県高校総体登山大会(男) 6/5～7太平高原 ・B.C設営7/18～19上高地 ・夏山合宿(男) 7/30～8/1濁沢 ・夏山縦走(男) 8/5～9扇沢～獅子岳～真砂岳～剣岳～池の平 ・夏山縦走(女) 8/5～6裏銀座コース(上高地～槍ヶ岳)「ブナ尾根を登るコースではなく、槍沢を登ったが途中から風雨が激しくなり雷雲も発達し、生きた心地なし。何人かが冷えて足にケイレン。テントのなかを水が流れ手のほどこしようがなくなり小屋に避難。下山を決定する。次の日の朝太陽の光を浴びて下山。次回こそ成功させるぞ!。」 ・B.C撤収8/17～18上高地 ・中信総体新人登山大会10/3～4山岳センター～鷹狩山～爺が岳 ・秋山山行(まくりだし) 10/17～18八ヶ岳 ・冬山偵察山行12/5～6遠見尾根、小遠見 ・冬山合宿12/27～29遠見尾根、白岳 ・スキー合宿3/15～17八方尾根 ・第10回OBよりノースフェイス社製テント寄贈(24万円)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国連人口白書、世界総人口50億人突破と発表</li> <li>・国連、イラン・イラク即時停戦決議</li> <li>・ソ連、ペレストロイカ(改革) 始まる</li> <li>・米ソ、中距離核兵器全廃条約調印</li> <li>・高橋通子らチョ・オユーに登頂</li> </ul>
昭和63 (1988)	-当時顧問・渡会意士氏の資料による- C.L川上(3年)、西牧、牛山、小林、三沢、小川原、山元、富樫(2年)、池田、本山、望月(1年)、女子、青柳(1年) ・高校登山研修会(男) 5/13～15山岳センター～針ノ木 ・新人歓迎山行(男・女) 5/28～29常念岳 ・県高校総体登山大会(男) 6/3～5大平 ・B.C設営7/16～17上高地 ・夏山合宿8/1～4中岳～奥穂 ・夏山縦走(男) 8/6～10笠が岳～雲の平～薬師～扇沢「夏山合宿がおわり、1日おいてからの夏山縦走でなにかと忙しかった。夏山合宿が3日もおくれたからである。初日AM3:00におきて3:30におきて縦走にでかけようとした無謀な一年生がいて彼はその日見事に寝坊して皆を苛立たせた。笠が岳での野営では雨に降られて大変であった。シュラフカバーのない僕は雨具をきてねむった。2日目。この行程の長いこと!笠が岳が遠く小さくみえる。よく歩いたもんだと感心せずにはいられない。3日目の雲の平から薬師沢小屋へ下る道の滑ること!皆でコロコロ転がっていた。4日目の朝(?)はAM12:30起床。縦走ラーメンを食べたあと薬師岳に到着したときはまだまっくらで富山県側に町のあかりがみえた。5日目最終日である。海をめざして意気さかんであったのに雨とひどい風にみまわれてやむを得ず黒部ダムにおりにることになった。こうして縦走は終わった。僕は信濃大町駅に到着して、トイレの鏡をみて愕然とした。顔にヒゲがぼうぼうであったのだ。」 ・夏山縦走(女) 8/7～10表銀座 ・B.C撤収8/20～21上高地 ・	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソ連アフガニスタンより撤退</li> <li>・イラン・イラク戦争終結、両者の直接交渉始まる</li> <li>・ソウルオリンピック大会</li> <li>・青函鉄道開業、瀬戸大橋開通</li> </ul>

年度	山 岳 部 の 活 動	山岳界・社会・学校のできごと
	<p>中信総体新人登山大会10/1～2馬羅尾～有明山・秋山山行(まくりだし)(男・女)10/15～16ハケ岳(硫黄・赤岳)・冬山偵察山行(男)12/3～4八方尾根・冬山合宿(男)12/27～29八方尾根・スキー春山合宿(男)3/9～11梅池～白馬乗鞍・冬の野外生活研修会3/17～19山岳センター～遠見尾根</p>	
平成元 (1989)	<p>西牧、牛山、小川原、小林、富樫、三沢、山元(3年)、池田、本山、望月、宮田、羽生田、斉藤、櫻井(栄)(2年)、中村、田澤、久田、東、村山、西村、岩佐(1年)</p> <p>・5/19～21大町山岳センター～扇沢～針ノ木雪溪・5/27～28三俣～蝶ヶ岳・6/2～4上田～烏帽子岳～湯ノ丸山～高峰高原・7/15～16上高地B.C設営・7/31～8/3涸沢～奥穂～ジャングルム～大キレット～北穂・8/7～11扇沢～爺ヶ岳～鹿島槍～五竜岳～唐松岳～白馬岳～祖母谷～樺平～魚津・8/19～20B.C撤収・9/30～10/1大町山岳センター～爺ヶ岳・10/21～22茅野～赤岳鉾根～横岳～赤岳～行者小屋～美濃戸・12/2～3遠見尾根(偵察)・12/28～30遠見尾根～白岳・90/3/9～11梅池スキー場～白馬乗鞍岳</p> <p>元号が平成に代わったこの年は各学年とも7名ずつの部員が在籍し、賑やかな山行が多かった。筆者は丁度この年2年生であった。当時慣例となっていた事柄を列举してみる。春の新人歓迎山行後におけるキスリングレース。優良で軽量のザックを背負った上級生が上位入賞する、という初めから結果の判っているレースであった。4泊程度の夏山縦走の最終日には温泉地に宿泊し、海を回って帰松するコースが多く採用された。冬山山行では各自スキーを持参し、頂上付近まで担ぎ上げ、大滑降を楽しんだ。どの山行においても最終日の夜は大型テントに集合し、「深山りんどろ」を含め20曲程度の山の歌を合唱した。その後反省会をし、上級生、下級生入り混じって就寝した。装備面においては、今では常識となった感のあるゴアテックスのウェアもちらほら散見され、個人で小型ストーブや、ランタンを携帯する者もいた。しかし、1年生は昔ながらのキスリングに、燃料の漏れやすいポリタンク、ラジウス、大鍋、コッフェル、ザイルなど一式を詰め込み、上級生の後を付いていくばかりであった。他校との交流時にも、キスリングを使用しているのは深志のみであった記憶がある。古き良き伝統と、現代感覚の混在する時代であった。「アウトドア」と聞くと閉口なさる諸先輩も多いかと思われるが、事実そのような雰囲気も存在していたような気がする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オゾン層保護(フロンガス全廃)ヘルシンキ宣言</li> <li>・ベルリンの壁撤去始まる</li> <li>・昭和時代終焉</li> <li>・消費税実施</li> <li>・天安門事件</li> <li>・参議院選、自民党大幅後退</li> <li>・遠見尾根おける県山岳総合センター主催の冬山登山の講習会で表層雪崩のため蟻ヶ崎高校教諭酒井耕(本校卒業生)死亡</li> <li>・田淵行男死去</li> </ul>
平成2 (1990)	<p>- 中信高体連登山部年報1990より -</p> <p>C.L池田、S.L本山、斉藤、桜井、羽生田、宮田、望月(3年)、中村、田沢、久田、東、村山、西村、岩佐(2年)、望月、品川、新村、羽根田、岡村、北沢(1年)</p> <p>・夏山縦走(南アルプス)8/5～9甲斐駒ヶ岳～仙丈岳～北岳～農鳥岳～奈良田温泉「この年新入部員が6人入部し総勢20人という大部隊が再びできた。この年の夏山縦走は台風上陸が心配されていたが、予定通り行われた。コースは北岳・仙丈岳を中心とした南アルプスの縦走であった。1日目は全員元気だったが、2日目の仙丈岳から両俣小屋</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国連安保理、対イラク制裁決議</li> <li>・ドイツ統一達成</li> <li>・ソ連、ゴルバチョフ大統領就任</li> <li>・イラク軍、クエート侵攻</li> <li>・日・米・仏・ソ・英・中合同隊が犬橿とスキーで南極大陸横断</li> <li>・松中・深志山岳部OB会設立準備会(4/21)</li> </ul>



年度	山 岳 部 の 活 動	山岳界・社会・学校のできごと
	<p>への下りはもっともつらかった。また3日目は日本第2の北岳にのぼり霧につつまれたその勇壮な姿にしばし皆みとれていた。4日目の奈良田温泉では3年生のザックから釣り道具が登場。5日目の沼津の海では1年生のキスリングから水中めがねがとびだした。雷雲にあたり10リットルポリタンクが山からおちるなどいろいろあったがとてもいい山行であった。またこの年ついに山岳部にもハイテク化の波がおしよせた。3年生がついに山行にビデオカメラを持参したのである。その素晴らしい(?)記録はいまもしっかりといきつづけている。」・秋山登山(まくりだし) 10/20~21燕岳 ・冬山偵察山行12/2~3遠見尾根 ・冬山山行本番12/28~30五竜岳 ・スキー合宿3/9~11白馬乗鞍</p>	
平成3 (1991)	<p>－中信高体連登山部年報1991より－ C.L中村、S.L田澤、東、岩佐、西村、久田、村山(3年)、望月、品川、新村、北沢(2年)、横内、倉沢(1年)・登山技術研修5/17~19針ノ木 ・新人歓迎登山5/25~26蝶が岳 ・インターハイ5/31~6/2美ヶ原 ・B.C設営7/13上高地 ・夏山合宿7/29~8/1瀬沢 ・夏山縦走8/7~10燕~槍ヶ岳~三俣蓮華~新穂高温泉「この年の縦走はちょっとしたハプニングにより予定の変更をよぎなくされた。山行スケジュールは3日目に雲ノ平までいき4日目に湯俣温泉まで降りるという超ハードスケジュールであったが、1年生にはきつすぎたのか1人が三俣蓮華でダウンし予定を変更4日目に新穂高温泉まで引き返した。登山では臨機応変に行動していかなければならないことが反省として残った。印象に残ったところは3日目の三俣蓮華岳で広い大地の花畑を歩いてみて北アルプスのイメージが変わった。槍ヶ岳もよかったが、人が多くていささか俗化した感じをうけた。」・新人戦10/5~6聖高原 ・秋山山行(まくりだし) 10/18~19燕岳 ・冬山偵察11/30-12/1五竜遠見 ・冬山合宿12/27~29五竜遠見 ・スキー合宿3/6~8白馬乗鞍</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・湾岸戦争始まる</li> <li>・NATO首脳会議、ローマ宣言、冷戦構造の消滅</li> <li>・米ソ戦略兵器削減条約(START) 調印</li> <li>・EC首脳会議、欧州連合(EU)の創設への発足</li> <li>・ワルシャワ条約機構完全解体</li> <li>・ソ連邦消滅</li> <li>・南ア、アパルトヘイト体制終結</li> <li>・カンボジア和平バリ会議最終合意文書調印</li> <li>・韓国・朝鮮同時に国連加盟</li> <li>・雲仙普賢岳噴火</li> <li>・大手証券会社の巨額損失補填問題となる</li> <li>・長谷川恒男らウルタルII峰登攀中、雪崩遭難死亡</li> <li>・松中・深志山岳部OB会設立総会(3/23) 会報第1号発刊(7/10)</li> </ul>
平成4 (1992)	<p>－中信高体連登山部年報1992より－ 岡村、小沢、北澤、小松、品川、紫、鈴木、新村、望月、(交換留学生) テリー、マティアス(3年)、横内(2年)、有賀、飯沼、小幡(1年)、女子、大輪、倉科、丸山、中沢(1年) ・乗鞍スキー山行5/3乗鞍岳 ・新人歓迎山行5/16~18白馬乗鞍~白馬岳 ・インターハイ6/5~7遠見~木崎 ・B.C設営7/18~19上高地 ・夏山合宿(京都洛北高校との交流会) 8/3~6瀬沢~北穂「今年の夏山合宿は前々から計画されていた京都洛北高校との交流会もあったということで多彩な山行となりました。初日は順調なペースでから沢まで。しかし途中先頭が後ろをまたず先にいってしまったなど、反省される点もありました。2日目は沢沿いのロッククライミングなどの難しさ、稜線へでる手前のガレ場の急登の恐怖などおもいで深いものがありました。3日目は北穂からから沢岳へ。から沢について撤収し、横尾へ下りました。そして洛北校のみんなを待っていたのですが、洛北の人達の予定の遅れで8:30からの短時間の交流になってしまいました。しかし、両部の年間活動を紹介</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球環境賢人会議、東京で開かれる</li> <li>・環境と開発に関する国連会議(地球サミット)</li> <li>・ロシア、独立国家共同体創立(CIS) エリツィン大統領就任</li> <li>・アフガニスタン内戦終結</li> <li>・国連平和維持活動(PKO) 法案成立</li> <li>・佐川急便事件起こる</li> <li>・深志・京都洛北高(旧京都一中) 山岳部交流会(徳沢)</li> </ul>

年度	山 岳 部 の 活 動	山岳界・社会・学校のできごと
	<p>していくなかで、あちらのほうがふだんの活動はしっかりやっていること、食事もインスタントがおおい僕たちに比べかなり豪華だということなど短時間でいろいろ知ることができました。そしてなによりも『若者の山離れ』と言われる今、このような交流会によって若者同士が山の良さを確認しあえるということが一番うれしかったです。』・夏山縦走 8/11～16悪沢～赤石～聖～光 ・B. C撤収 8/22上高地 ・新人戦10/3～4山岳センター</p>	
平成5 (1993)	<p>－中信高体連登山部年報No17より－ 倉澤、横内(3年)、小幡、清沢、小穴(2年)、佐藤、犬飼(悟)(1年) 女子、清水(1年) ・5/8牛伏寺～鉢伏山 ・5/14～16山岳センター～針ノ木峠 ・6/4～6志賀高原～ノ瀬 ・6/4～6県大会、松川村馬羅尾キャンプ場、「はっきりにって私はこの大会、好きではない。友達作りにはいいが、競技というのはどうもいただけない。私の山に対する観点からすると、山は競うべきものではないと思うのだ。仲間と手を取り合い、自分達と戦い、それに打ち勝って喜びを得る。これが登山じゃないかな、と思う。」・6/12～13白馬尻～白馬岳 ・7/17～18B. C設営「あいにく雨の中の設営。しゃら重て一板や、パイプを運んで気がつくとき夜8時。アルカン(注1)へ申し込みに行くと、なんとうれしや、おっちゃんに『おむすび』をもらったのである。今までの対立がうその様で、やっばこういうのいいな～と思った。(注1)日本アルプス観光株式会社－上高地小梨平のB. Cの地主さんである。」・8/1～4濁沢周辺 ・8/9～12扇沢～爺ヶ岳～鹿島槍～五竜岳～停滞～唐松岳～八方尾根～白馬 ・8/21～22B. C撤収 ・10/2～3馬羅尾高原 ・10/16～17中房～燕 ・12/4～5遠見尾根(偵察) ・12/26～28遠見尾根(本番) ・94/3/5～7梅池スキー場～天狗原～白馬乗鞍岳</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国連、化学兵器禁止条約調印(130ヶ国)</li> <li>・ウルグアイ・ラウンドの最終的妥結</li> <li>・欧州連合(EU)条約(マースリヒト条約)発効</li> <li>・イスラエルとパレスチナ開放機構(PLO)との暫定的自治協定調印</li> <li>・細川内閣発足、55年体制の終焉</li> <li>・中信地区の池田工業、松本工業、木曾の3校で山岳部が姿を消す</li> <li>・OB会、乗鞍岳スキー登山(5/30)</li> </ul>
平成6 (1994)	<p>－中信高体連登山部年報No18より－ 小幡、清澤、小穴、有賀、飯沼(3年)、佐藤、犬飼(悟)、逢沢(2年)、宮島、小野、藤井(1年) 女子、中沢、丸山(3年)、清水(2年) ・5/1午伏寺～鉢伏山 ・5/14～16梅池山荘～天狗原「2日目は白馬岳まで行く予定であったが、あいにくの雨で停滞した。停滞というのたまにはいいものである。ゆっくりと自分の時間を過ごせるし、食事にも全力投球できる。次の日も小雨が混じるような状況であったが、すこし下った斜面で訓練した。その後、キスリングレースが行なわれた。」・6/3～5飯縄山～黒姫山 ・7/16～17B. C設営 ・7/25～8/15第6回長野県高校生訪中登山交流会、中国四川省・大姑娘山、当校から3年生の小幡友樹君、今井秀幸顧問の2名参加「その頃からみんな高山病に苦しみだしていた。申し訳ないだか、うれしいのだから、そんな苦しみも知らず、明日に迫った5,000mだけを考えているオレだった。8月3日いよいよ頂上アタック。－中略－1歩1歩、呼吸を整えながらゆっくり登る。まるでナメクジになったような、そんな感じさえた。ちょうど正午、天を仰いだ。付きそってくれたチベットのモミあげ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米ロ間の戦略兵器削減条約発効</li> <li>・ユーロトンネル開通</li> <li>・イスラエル・ヨルダン平和条約調印</li> <li>・南ア大統領マンデラ就任</li> <li>・北朝鮮核査察拒否問題</li> <li>・金日成死去、金正日後継体制発足</li> <li>・村山内閣発足、新党群立</li> <li>・ボスニア・ヘルツェゴビナ紛争</li> <li>・松本サリン事件</li> <li>・大町北の山岳部が姿を消し、中信地区で山岳部は8校となる</li> <li>・日本山岳会信濃支部長に田中弘美(深志山岳部OB)就任</li> <li>・OB会、キリマンジャロ遠征(12/24～1/7)</li> </ul>

年度	山 岳 部 の 活 動	山岳界・社会・学校のできごと
	<p>コウさんと、大姑娘山を背にうたい、おどった。－中略－          彼らの生活は物こそないものの、豊かだった。彼らの目は輝いていた。」・8/1～4 涸沢合宿～大キレット～北穂～奥穂～前穂～涸沢岳～横尾 ・8/8～12伊那大島～三伏小屋～塩見岳～農鳥小屋～間ノ岳～北岳～広河原～甲府          ・8/21B. C撤収 ・9/24～25中信高等学校新人体育大会・登山の部、県山岳総合センター周辺「深志、第2位・第3位獲得」例年行なわれる踏査競技に加え、大町市人工岩場でスポーツクライミング講習会が行なわれる。・10/15～16燕 ・12/3～4 遠見尾根 (偵察) ・12/26～28遠見尾根 (本番) ・95/3/25～27梅池スキー場～白馬乗鞍岳</p>	
平成7 (1995)	<p>－中信高体連登山部年報No19より－          佐藤、逢沢、犬飼 (哲) (3年)、 宮島、小野、藤井 (2年)、大輪、平形、小引 (1年)          女子、清水 (3年)          ・4/29～30八ヶ岳～新人歓迎 ・5/27～28雪上訓練、白馬大雪渓「雪上訓練、それは可測の事態に備えてやる。そう、その『只今準備中』の僕達の前に1人のスキーヤーが来て、無線で助けを呼ぶよう頼んだ。誰かが落石で、頭に血を帯びているらしい。僕はまさにこれは可測の事態だと思った。－中略－だから、山の危険を頭のすみにおいて、山に行きたいという気持ちが真ん中にくる山屋は、みんな危険なんだろうと思った。」・6/2～4八ヶ岳、県大会「深志の山岳部のシンボル－キスリングと大鍋－そのキスリングをしょった僕達は『おい深志、やたらと重いぞ』と心配され見事にビリッケツ。大鍋はというといつも作りすぎて－人間ポリ(残り物を処理する人)－がその時々で交代して、あまりを食べて苦しむ。でも深志らしさが出てとてもすがすがしかった。」・7/15～16上高地B. C 設営「毎度のことながら、アルカン (注1) にテントの縮小を求められさんざんにおこられた。肉体的負荷と、精神的負荷を同時に体験できるが、夜になれば、そんなものはいっきに解消。みんなくるい、あばれ、叫ぶ。こんな気さくな仲間ができたのは、とても嬉しいし、いつまでも付き合っていきたいなあ。(注1) 平成5年参照」・8/2～5 涸沢合宿～奥穂～南岳～大キレット～北穂「涸沢での合宿は、奥穂から前穂、又はジャングルムへ出かける日、横尾右俣経由で南岳、キレット、北穂を回る日の両日がメインとなる。1年生は、初めての岩場に肝を冷やし、精神的にバテることが多い。」・8/15～19七倉～船窪～烏帽子岳～野口五郎岳～水晶岳～三俣蓮華岳～槍ヶ岳～横尾 ・8/20 B. C撤収 ・9/30～10/1 新人戦、美ヶ原 ・10/14 千畳敷～駒ヶ岳 ・12/2～3 遠見尾根 (偵察)「テレキャビンを降りたときから降っていた雪は4日になっても降り続き、場所によっては胸まであるラッセルに苦しんだ。」・12/26～27遠見尾根 (本番) ・96/3/8～10白馬乗鞍岳～梅池スキー場</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界貿易機関 (W T O) 発足</li> <li>・国連世界女性会議北京で開催</li> <li>・阪神・淡路大震災</li> <li>・アメリカ、ベトナムと国交樹立調印</li> <li>・イギリス、メートル法施行</li> <li>・イスラエル、ラビン首相暗殺</li> <li>・中国・フランス地下核実験実施</li> <li>・国連核実験停止決議</li> <li>・東京地下鉄サリン事件を契機にオウム真理教の捜査始まる</li> <li>・美須ヶヶ丘高に信州博で使用されたロッククライミング人工壁が登場</li> <li>・木曽高のワンゲル、梓川高のアウトドア部</li> </ul>
平成8 (1996)	<p>－中信高体連登山部年報・No20より－          小野、藤井、宮島 (3年)、 平形、大輪、小引 (2年)、穂刈、平林、横沢、犬飼 (哲) (1年)          ・4/27牛伏寺～鉢伏山 ・5/31～6/2大平宿 ・6</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国連、包括的核実験禁止条約 (C T B T) 採択</li> <li>・東京・大阪H I V訴訟和解</li> <li>・病原性大腸菌O－157患者6,000人を超す</li> </ul>

年度	山 岳 部 の 活 動	山岳界・社会・学校のできごと
	<p>／22～23雪上訓練 天狗原～白馬岳「梅雨の最中だったので、天気はそれほど良くなかったが、雪は充分残っていたので、しっかりと雪上訓練を行なうことができ、安心できた。」・7／13上高地B.C設営・7／31～8／3 酒沢合宿、大キレット～北穂～奥穂～ジャンダルム・8／9～13夏山縦走、塩川小屋～三伏峠～高山裏小屋～荒川岳～赤石岳～兎岳～聖岳～柿の島・8／18B.C撤収・9／28～29鳳凰三山・11／30～12／1 遠見尾根(偵察)・12／26～28遠見尾根～白岳(本番)・97／3／30～4／1 柵池スキー場～天狗原～白馬乗鞍岳</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュージーランド公募隊、難波康子エベレスト登頂後疲労凍死</li> <li>・小西政継、マナスル登頂後行方不明</li> <li>・深田久弥、百名山ブームの中で重廣恒夫123日で百名山踏破</li> <li>・県山協・中国合同隊がチベット側からチョモラリ初登頂</li> <li>・OB会、御岳スキー登山 <ul style="list-style-type: none"> <li>・深志創立120周年記念事業</li> </ul> </li> </ul>
平成9 (1997)	<p>－中信高校山岳部年報・No21より－  平形、大輪、小引(3年)、平林、穂刈、犬飼(哲)、横沢(2年)、伊藤、酒井、柴田、高山、寺沢(1年)  ・4／29北八ヶ岳・6／28～29白馬岳、雪上訓練・7／12～13B.C設営「台風が直撃したその日、まさか今日には行くまいと思ったのも甘い考えだったようで、嵐の中の玉砕覚悟の決行となった。－中略－しかし、このテントこそ深志高校山岳部の夏山山行の象徴であり、今年の夏山シーズンの到来に胸を踊らせた。そしてOBとの接触により、この小梨平にBCを作る意味を再確認し、ここに我が校のBCが永遠にあり続けることを願い、上高地を後にした。」・8／3～5 酒沢合宿～奥穂・8／14～18北沢峠～仙丈岳～両俣小屋～北岳～農鳥小屋～熊の平小屋～塩見岳～三伏峠～伊那・8／22B.C撤収・9／27～28鉢伏山、新人戦・10／18～19まくりだし、燕岳「3年生を追い出す山行に、新人が5人もデビューしたということで、深志高校山岳部の前途も明るいずら、と皆で喜んだものだった。新1年生が入学して、半年たったのに新入部員が1人もいない切実な事実はOB会でも問題になり、もう冗談だと、笑って済まされない問題だった。」・11／22～23遠見尾根(偵察)・12／26～28遠見尾根(本番)・98／3／20～22白馬乗鞍岳</p>	

参考資料

- ・松本中学校・松本深志高等学校「校友」
  - ・小野朋士氏資料
  - ・渡会意士氏資料
  - ・中信高体連登山部年報
  - ・昭和50年度松本深志高校山岳部発行「嶺雲」
  - ・服部慎一遺稿集「吾に一人の僚友ありき」
  - ・「松中・深志九十年史」
  - ・朝日年鑑
  - ・安川茂雄著「近代日本登山史」
  - ・山と溪谷社「日本の山を知る十章」
  - ・高橋定昌著「日本岳連史」
- 他OB各位提供資料